

別表3 電子情報通信工学系 一般科目

各学科共通

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	国語 I	3	3						
	国語 II	2		2					
	国語 III	2			2				
	社会	地理	2	2					
		歴史 I	2	2					
		歴史 II	2		2				
		公民 I	2		2				
		公民 II	2			2			
	数学	基礎数学 I	3	3					
		基礎数学 II	3	3					
		基礎数学 III	2		2				
		微分積分学 I	4		4				
		微分積分学 II	3			3			
		数学解析	3			3			
		数理演習	1		1				
	理科	物理 I	2	2					
		物理 II	3		3				
		化学 I	3	3					
		化学 II	2		2				
	保健・体育	保健・体育 I	3	3					
		保健・体育 II	2		2				
		保健・体育 III	2			2			
		保健・体育 IV	2				2		
	外国語	英語 I A	4	4					
		英語 I B	2	2					
		英語 II A	3		3				
		英語 II B	2		2				
		英語 III A	2			2			
		英語 III B	2			2			
		英語学演習	2			2			
芸術 I	1	1					音楽・美術・書道から選択		
芸術 II	1		1				音楽・美術・書道から選択		
キャリア概論	1			1			1～3年で履修		
小計		75	28	26	19	2	0		
選択科目	文学特論 II	2				2			
	自然特論	1					1		
	数学概論 I	1				1			
	数学概論 II	1				1			
	数学概論 III	1					1		
	英語特論 I	2				2			
	英語特論 II	2					2		
	中国語 I	2				2			
	中国語 II	2					2		
	社会特論 I	2				2			
	社会特論 II	2					2		
	保健・体育 V	1					1		
	海外英語演習	1				1			
	教育支援活動	1			1				
小計		21	(1)	(1)	(2)	10(2)	9(2)		
開設単位合計		96	28(1)	26(1)	19(2)	12(2)	9(2)		

計欄の ( ) 数字は、いずれかの学年で修得できる単位 (外数)

科目名	国語 I Japanese I			担当教員	富士原伸弘		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220001	単位区別	履修
学習目標	1. 現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。						
進め方	教科書を基に、講義と論述・発表演習を行う。特に、学習目標のうちA1～B3の項目に重点をおいて授業を進める。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. シラバス解説（1） 2. 評論「水の東西」（6） 3. 古文入門（7） 4. 漢文入門（7） ----- [前期中間試験]（1）			物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:1			
	5. 答案返却・解答（1） 6. 表現1：概説（3） 7. 評論「コインは円形か」（6） 8. 古文「竹取物語」（6） 9. 漢文「漢詩」（6） ----- 前期末試験			自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2  日本古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3 中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3			
	10. 答案返却・解答（1） 11. 表現2：プレゼンテーション演習（3） 12. 評論「なぜ私たちは労働するのか」（6） 13. 古文「土佐日記」（6） 14. 漢文「推敲・雑説」（6） ----- [後期中間試験]（1）			データを効果的に説明する力を養う。 B3:1-2, C4:1-2 日本人の思考を知り、文化について考える。 A3:2			
	15. 答案返却・解答（1） 16. 表現3：文章表現（1） 17. 小説（一）・（二）を読む（6） 18. 古文「伊勢物語」（6） 19. 漢文「論語」（6） ----- 後期末試験			自分の考えを正しく表現できる。 B2:1-2 登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2			
	20. 答案返却・解答（1） 21. 表現4：ディベート演習（2）			発言者の意図を正しく理解できる。 B3:1-3			
	評価方法						
	年4回の定期試験90%、プレゼンテーション演習・ディベート発表・提出物等10%で評価する。						
履修要件							
特になし。							
関連科目							
国語Ⅰ（1年）→国語Ⅱ（2年）→国語Ⅲ（3年）→文学特論Ⅱ（4年）→文学特論（専攻科2年）							
教材							
教科書：精選国語総合 三省堂 中渕正堯他編 参考書：新訂総合国語便覧 第一学習社							
備考							
特になし。							

科目名	地理 Geography			担当教員	石丸 健		
学年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220002	単位区別	履修
学習目標	現代社会の空間事象のあり方，展開の状況を教科書・統計表・地図帳等を通して理解し，関心を持って直視できる姿勢を身につける。又，現代社会には地球的課題が存在し，その解決のためには国際協力が必要であることを理解する。						
進め方	各学習項目ごとに，教科書・地図帳・Aノート他を利用し，キーワードの確認・理解・延長へと学習内容を進めていく。又，授業には参加型学習の形態を取り入れ，興味関心を強めるよう指導する。そして，現代社会の問題点が地域から全体へ，過去から現代に通じるものであるという共時的・通時的考えを身につけさせることにより，我々の行動に責任が要求されていることを自覚させる。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 球面上の世界と地域構造 (2) 2. 世界地図の種類と特徴 (2) 3. 時差の求め方 (2) 4. 国家と地域区分 (2) 5. 消費行動の変化と地域差 (2) 6. 中国の生活・文化 (2) 7. 東南アジアの生活・文化 (2)			地図を利用し地球の特質を理解する。また、世界中での日本の位置の把握と領域等の現状を理解する。 A3:1 中国・東南アジア等の近隣地域の生活・文化の実態を理解し，共生の考えを身につける。 A1:3			
	[前期中間試験] (1)						
	8. 試験問題の解答 (1) 9. 試験問題の解答，世界を結ぶ交通 (2) 10. 世界を一つに結ぶ通信 (2) 11. 国際化する人々の移動 (2) 12. 拡大する世界の貿易 (2) 13. さまざまな余暇活動 (2) 14. インドの生活・文化 (2) 15. 西アジアの生活・文化 (2)			人・物・情報の移動に伴う世界の結びつきを理解する。 A1:1,A3:2 現代社会における行動権の拡大と地域差，現状を理解する。 A3:1 南アジア・西アジアの地域的特性を理解する。 A1:3			
	前期末試験						
	16. 試験問題の解答 (1) 17. 世界の人口問題 (2) 18. 世界の食料問題 (2) 19. 世界の都市・居住問題 (2) 20. 世界の資源・エネルギー問題 (2) 21. アフリカの生活・文化 (2) 22. ラテンアメリカの生活・文化 (2)			気候・気候等の自然環境を学び，人間生活との関わりを理解する。 A3:1 世界に生じている人口・食料・都市・居住・資源・エネルギー問題を理解する。 A3:1			
	[後期中間試験] (1)						
	23. 試験問題の解答 (1) 24. 近隣諸国の大気汚染への取り組み (2) 25. 近隣諸国の森林破壊への取り組み (2) 26. ヨーロッパの生活・文化 (2) 27. ロシアの生活・文化 (2) 28. アメリカ合衆国の生活・文化 (2) 29. 韓国の生活・文化 (2)			環境問題に関心を深め，宇宙船地球号としての各国の協力と共生による地球環境の維持の大切さを理解する。 A1:2 様々な地域の特徴を理解する。 A1:3			
	後期末試験						
	30. 試験問題の解答 (1)						
評価方法	定期試験 80%，作業ノート・課題レポートの提出等 20%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし。						
関連科目	歴史（1年），歴史・倫理社会（2年）→ 政治経済（3年）						
教材	教科書「高等学校 新地理A」，「基本地図帳」，教材「高等学校 新地理A ノート 初訂版」						
備考	特になし。						

科目名	歴史 I History I			担当教員	内田由理子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220003	単位区別	履修
学習目標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質及び人類の課題を広い視野から多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。また、学習教育目標である「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を、授業を通して培っていく。						
進め方	地球的視点から多面的に物事を考える能力：世界の歴史の展開を、広い視野に立って多面的・多角的に捉えさせ、地球世界の課題についても考察する能力を育成する。年間の授業を通して、学習教育目標「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を培っていく。与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を重視するとともに、作業的な学習を取り入れ学習効果を高めるよう工夫する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 人類の進化(2) 2. メソポタミア文明(3) 3. オリエント世界の統一(4) 4. イスラーム世界の成立と展開(2) 5. 地中海世界とローマ帝国(4)			農業と牧畜の発生により世界各地に都市文明が生まれていった。また文字は文明を進展させ伝達する役割をはたしていく。 オリエント世界、地中海世界における文明の生成と発展、イスラーム世界、地中海世界の成立と展開について学ぶ。 A1:3			
	[前期中間試験]						
	6. 答案返却・解答(1) 7. 秦漢帝国の成立(2) 8. 魏晋南北朝の動乱(2) 9. 隋唐帝国の成立(2) 10. 征服王朝と宋(1) 11. モンゴル帝国の中国支配と興亡(2) 12. 明清帝国の繁栄(2) 13. 地中海世界とローマ帝国(3)			世界各地には独自の地域世界が形成されていった。人類の残した古代文明と地域世界の展開にはどのような特色がみられるのか、東アジア世界を中心に学ぶ。  ヨーロッパ世界の地政学的な特質や、ローマ帝国の解体にともなった東西世界の成立について学ぶ。 A1:3			
	前期末試験						
	14. 答案返却・解答(1) 15. 西ヨーロッパ世界の成立(2) 16. ヨーロッパ世界の展開(2) 17. ルネサンスと宗教改革(4) 18. 大航海時代とアメリカ・アフリカ(3) 19. 絶対王政の時代(3)			ヨーロッパ世界の政治と経済・社会の大きな変動を学ぶ。 モンゴル発展の背景と展開、明清の政治体制と冊封体制にもとづく国際秩序の形成について学ぶ。 「大航海時代」の背景、世界の一体化の進展について学ぶ。 A1:3			
学習内容	[後期中間試験]						
	20. 答案返却・解答(1) 21. フランス革命とナポレオン(3) 22. 世界市場の形成と世界の分割(3) 23. 第一次世界大戦とロシア革命(3) 24. 第二次世界大戦と戦後世界の形成と変容(4)			絶対王政の成立と主権国家体制、フランス革命や産業革命が19世紀の欧米諸国に与えた影響、世界資本主義システムの形成、帝国主義の世界分割、第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる政治の展開、全地球的規模で取り組まねばならない課題について学ぶ。 A1:3			
	後期末試験						
	25. 答案返却・解答(1)						
評価方法	定期試験、提出物（ノート、プリント、その他の課題）や学習活動等で総合評価する						
履修要件	特になし						
関連科目	地理（1学年）→国語/漢文（2学年）、公民Ⅰ→公民Ⅱ（3学年）						
教材	教科書：木畑 洋一 他著「世界史A」実教出版						
備考	特になし						

科目名	基礎数学 I Fundamental Mathematics I			担当教員	上原成功		
学 年	1 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220004	単位区別	履修
学習目標	この科目では、主に次のことを学習する： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整式を中心とする数と式の計算</li> <li>・ 集合と論理</li> <li>・ 2次方程式を中心とする方程式や不等式</li> <li>・ 関数の概念と、2次関数をはじめとする初等的な関数のグラフとその応用</li> <li>・ 座標平面上の直線や円などの図形とその応用</li> </ul>						
進め方	教科書にそって基本事項、例と例題を解説したのち、問の問題を演習する。適宜、章末の問題、練習問題A Bのプリント、問題集を用いた演習を行う。一般演習の時間に小テストを実施し、その結果をもとに選抜した学生を対象とした補習を行う。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 数と式(30) (1) 整式(6) (2) 3次式の展開と因数分解(2) (3) 実数(6) (4) 1次不等式(8) ----- [前期中間試験] (2)			整式の四則 (加減乗除), 基本的な展開, 因数分解, 1次不等式を理解し, 計算と基本的な応用ができる。 D1:1-3			
	(5) 試験問題の解答(1) (6) 1次不等式等の応用(5) 2. 集合と論証(10) (1) 集合(4) (2) 命題(6) 3. 2次関数(30) (1) 関数(2) (2) 2次関数とそのグラフ(3) 前期末試験			集合の記号を知っていて, 簡単な例において, 記号が扱える。 D1:1 簡単な命題について真偽が判定でき, 必要条件や十分条件が区別できる。 D1:2			
	(3) 試験問題の解答(1) (4) 2次関数とそのグラフ (続き) (11) (5) 2次方程式(5) (6) 2次不等式(5) ----- [後期中間試験] (2)			2次関数のグラフを描くことができ, その基本的な扱いができる。 D1:1-3			
	(7) 試験問題の解答(1) 4. 図形と方程式(20) (1) 点と直線 (8) (2) 円(5) (3) 軌跡と領域(6) 後期末試験			座標平面において, 点, 直線, 円などの基本的な取り扱いができる。 D1:1-3 座標平面において, 不等式の表す領域を図示することができる。 D1:1-3			
	(4) 試験問題の解答(1)						
	評価方法			定期試験の得点を平均したものを80%, レポート等の提出物, 小テスト, 授業での発表等を20%で評価する。			
	履修要件			特になし			
関連科目			{基礎数学 I, 基礎数学 II} → {基礎数学 III, 微分積分学 I}				
教 材			教科書: 「新編数学 I」「新編数学 II」(東京書籍) 演習書: 「アシストセレクト 新編数学 I + A」「アシストセレクト 新編数学 II」(東京書籍) 参考書: 「チャート式基礎と演習 数学 I + A」「チャート式基礎と演習 数学 II + B」(数研出版)				
備 考							

科目名	基礎数学Ⅱ Fundamental Mathematics II			担当教員	橋本竜太		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220005	単位区別	履修
学習目標	この科目では、主に次のことを学習する： ・三角関数をはじめとする基本的な関数の定義、基本性質、グラフとその応用 ・場合の数						
進め方	授業はAとBに分ける。授業Aでは担当教員が用意するプリント資料に沿って授業を進める。授業Bでは授業Aで学習したことの補足や発展として演習に取り組む。担当教員の指示する予習復習は実践しているものとして授業は進行するので、授業時間外の学習を怠らないこと。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 三角関数の学習の前に(4) (1) 三平方の定理(1) (2) 座標平面(3)			点の座標に関する基本的な計算ができる。 D1:2			
	2. 三角関数（その1）(22) (1) 度数法と弧度法、一般角(3) (2) 余弦、正弦、正接(9) (3) 簡単な三角方程式、三角不等式(7)			三角関数の定義を知っていて、簡単な値が計算できる。 D1:2 三角関数の基本的なグラフが描ける。 D1:2			
	[前期中間試験](2)						
	(4) 試験問題の解答(1)			三角関数の相互関係等の公式を簡単な例に適用できる。 D1:2 加法定理を基本的な問題に適用できる。 D1:2 三角関数を含む簡単な方程式や不等式を解くことができる。 D1:2			
	3. 三角関数（その2）(22) (1) 三角関数の相互関係(3) (2) 加法定理とその応用(9) (3) 総合演習(9)						
	前期末試験						
	(4) 試験問題の解答(1)			正弦定理と余弦定理を簡単な例に適用できる。 D1:2			
4. 三角比と図形の計量(22) (1) 正弦定理と余弦定理(4) (2) 三角形の計量(6) (3) 空間図形の計量(2) (4) 三角形の図形的性質(3) (5) 円の性質(4)							
[後期中間試験](2)							
(6) 試験問題の解答(1)			簡単な場合の数が計算できる。 D1:2 順列や組み合わせの記号を知っていて、簡単な計算ができる。 D1:2				
5. 場合の数(15) (1) 集合の要素の個数(3) (2) 場合の数(3) (3) 順列、組み合わせ(9)							
6. 三角関数（その3）(5) (1) 総合演習(4)							
後期末試験							
(2) 試験問題の解答(1)							
評価方法	4回の定期試験の得点を平均したものを80%、宿題・小テスト・レポートなどの提出物・授業への取り組みなどを20%で評価することを基本とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ} → {基礎数学Ⅲ, 微分積分学Ⅰ}						
教材	教科書：授業時配布資料および「新編数学Ⅰ」「新編数学Ⅱ」（東京書籍） 演習書：「アシストセレクト 新編数学Ⅰ+A」「アシストセレクト 新編数学Ⅱ」（東京書籍） 参考書：「チャート式基礎と演習 数学Ⅰ+A」「チャート式基礎と演習 数学Ⅱ+B」（数研出版）						
備考							

科目名	物理 I Physics I			担当教員	黒木 経秀		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220006	単位区別	履修
学習目標	工学の基礎となる物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、数式として表現することで、科学的な考え方を定着させる。						
進め方	講義内容は概ね教科書の内容に従うが、以下のような順で講義を行うため、必ずノートをとること。また、宿題を課すので、専用のノートを用意し、提出すること。適宜、小テストも実施する。一方、身近な材料を使った例や実験を取り入れ、物理現象が身近に感じられるように配慮する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.有効数字と単位(2) 2.速さと等速直線運動(2) 3.ベクトルとスカラー(2) 4.速度(1) 5.速度の合成(1) 6.相対速度(2) 7.加速度(1) 8.等加速度直線運動(4) ----- [前期中間試験](1)			速度、加速度を理解し、等速直線運動、等加速度直線運動に関する計算ができる。  D1:1,2			
	9.答案返却・解答(1) 10.力とつり合い(2) 11.力の合成と分解(1) 12.作用と反作用(1) 13.運動の法則(2) 14.運動方程式(2) 15.落体の運動(5) 前期末試験			運動の 3 法則を理解し、直線運動に関する運動方程式を立てることができる。  D1:1,2			
	16.答案返却・解答(1) 17.力の図示と運動方程式の扱い方(2) 18.水平面上の物体の運動(2) 19.斜面上の物体の運動(2) 20.摩擦があるときの物体の運動(4) 21.空中・水中の物体の運動(3) ----- [後期中間試験](1)			運動の法則を用いて物体にはたらく力と運動との関係を分析できるようになる。  D1:1,2			
	22.答案返却・解答(1) 23.仕事(1) 24.仕事の原理(1) 25.仕事率(1) 26.運動エネルギー(1) 27.重力による位置エネルギー(1) 28.弾性力による位置エネルギー(1) 29.力学的エネルギー保存則(7) 後期末試験			仕事の計算ができ、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。  D1:1,2			
	30.答案返却・解答(1)						
	評価方法						
	定期試験を 80%、平常点（小テスト、宿題、提出物など）を 20%の比率で総合評価する。						
	履修要件						
	特になし						
関連科目							
物理 I (1年) → 物理 II (2年), 数理演習(2年)							
教材							
教科書：三浦 昇 他 著 「物理基礎」東京書籍 三浦 昇 他 著 「物理」東京書籍 問題集：数研出版編集部 編 「リードα 物理基礎・物理」 数研出版							
備考							
オフィスアワーは、水曜の放課後とする。							

科目名	化学 I Chemistry I			担当教員	中村篤博, 黒木経秀			
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3	
分野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	15220007	単位区分	履修	
学習目標	原子, 分子の概念とそれから導かれる近代化学の基本的な考え方と自然観を理解する。また, 授業を通して, 自然に対する興味と探求の姿勢を育成する。							
進め方	化学 I A(2時間)と I B(1時間)に分ける。I Aは, 教科書と板書を中心に基礎概念・理論を簡潔に解説する。その後, 演習の機会を与え, 理解が深まるように進める。I Bは, 演習の時間とし, 高専で学習する化学の基礎となる物質の構成と化学結合, 物質量と化学反応式を中心として I Aの学習内容を定着させる。							
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標				
	化学 I A 1. 化学と人間生活のかかわり (1) 2. 物質の成分 (3) 3. 原子の構造と電子配置 (4) 4. イオン (3) 5. イオン・共有・金属結合 (2) 6. 元素の周期律 (2)			物質の構成や状態について理解している。また, 簡単な分離法について説明できる。 D1:1-3,D3:1				
	化学 I B 7. 演習 1 (数値計算①) (3) 8. 演習 2 (物質の構成・粒子・化学結合) (4) [前期中間試験] (1)			原子の構造とイオンについて理解している。また, それぞれの化学結合について説明することができる。 D1:1-3,D3:1				
	化学 I A 9. 答案返却・解答 (1) 10. 原子量, 分子量, 式量と物質量 (9) 11. 化学反応式と物質量 (4) 12. 溶液の濃度 化学 I B 13. 演習 3 (数値計算②) (1) 14. 演習 4 (物質量・化学反応式①) (6) 前期末試験			元素の性質を周期表と周期律から考えることができる。 D1:1-3,D3:1				
	化学 I A 15. 答案返却・解答 (1) 16. 酸と塩基 (3) 17. 水の電離と水溶液の pH (3) 18. 中和反応と塩 (3) 19. 酸化と還元 (4) 化学 I B 20. 演習 5 (物質の構成と化学結合・物質量①) (7) [後期中間試験] (1)			モルの概念を理解し, 質量, 物質量, 分子量の相互変換ができる。また, 簡単な化学反応式を組み立てることができ, これを用いて化学量論的な計算ができる。 D1:1-3,D3:1 質量パーセント濃度やモル濃度の計算ができる。 D1:1-3,D3:1				
	化学 I A 21. 答案返却・解答 (1) 22. 酸化剤と還元剤の反応 (5) 23. 金属のイオン化傾向 (2) 24. 電池 (3) 25. 電気分解 (3) 化学 I B 26. 演習 6 (物質の構成と化学結合・物質量②) (4) 27. 四国地区化学共通試験 (1) 28. 演習 7 (化学の基礎総合問題) (2) 後期末試験			酸と塩基の性質を説明できる。また, 電離度, pH について理解している。 D1:1-3,D3:1 中和反応について説明できる。また, 中和滴定の計算ができる。 D1:1-3,D3:1 酸化還元反応の定義を説明できる。 D1:1-3,D3:1				
	化学 I A 21. 答案返却・解答 (1) 22. 酸化剤と還元剤の反応 (5) 23. 金属のイオン化傾向 (2) 24. 電池 (3) 25. 電気分解 (3) 化学 I B 26. 演習 6 (物質の構成と化学結合・物質量②) (4) 27. 四国地区化学共通試験 (1) 28. 演習 7 (化学の基礎総合問題) (2) 後期末試験			酸化還元反応について説明できる。 D1:1-3,D3:1 イオン化傾向と金属の反応性について説明できる。 D1:1-3,D3:1 簡単な化学電池についてそれらの原理が説明でき, 1次電池, 2次電池の種類を知っている。 D1:1-3,D3:1 電気分解反応を説明でき, ファラデーの法則による計算ができる。 D1:1-3,D3:1				
	29. 答案返却・解答 (2) 30. 総括 (1)			化学結合やモルの概念といった化学の基礎を総合的に理解している。 D1:1-3,D3:1				
	評価方法	化学 I A, I B をあわせて化学 I として定期試験を実施する。前期は, 定期試験を 80%, 提出物を 20% で評価する。後期は, 定期試験を 80%, 提出物を 10%, 四国地区化学共通試験を 10% で評価する。前期と後期の平均を学年総合とする。						
	履修要件	特になし						
関連科目	化学 I (1年) → 化学 II (2年) → 環境と人間 (4,5年)							
教材	教科書: 化学基礎 数研出版 (104 数研 化基/308)							
備考	オフィスアワーは, 火曜の放課後とする。							

科目名	保健・体育 I Health and Physical Education I			担当教員	有馬弘智, 筒井和代		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	15220008	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明した上で、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。 団体種目については、個人の基礎技術を習得した上で、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール 説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 2. 集団行動 (1) 3. スポーツテスト (4)  【バレーボール】 4. パスの基礎技術(2) 5. スパイク基礎技術(3) 6. ルール説明(1) 7. チーム練習(1) 8. ゲーム(4) 9. 実技試験(1)  【水泳】 10. 各種目練習(3) 11. リレー・メドレーリレー(2) 12. タイム測定(1)  【鉄棒】 13. 基礎技術の修得(5) 14. 実技試験(1)  15. 体育祭および練習(7)  【バスケットボール】 16. 基礎技術の習得および対人練習(6) 17. ルール説明 (1) 18. チーム練習 (1) 19. ゲーム(4) 20. 実技試験(1)  【サッカー】 21. 基礎技術の習得および対人練習(4) 22. ルール説明 (1) 23. ゲーム(4) 24. 実技試験(1)  25. 【保健】(30)			年間計画を説明し、体育授業の目的・取り組む姿勢を 理解する。整列隊形や隊形変更など集団での行動を身 につける。自分自身の運動能力を把握し、運動能力の 向上を目指す。 F1:1-4, F2:1-4  バレーボールの基礎技術 (パス, スパイク) を修得 し、ゲームの中で、スパイクを打てるようにする。ま た、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5  水に慣れると共に、各競泳種目を理解し、それらの泳 ぎの向上を目指す。 F2:1-4, F3:1, 2  鉄棒の各種目の理論を理解し、反復練習を行うことで それらの種目を習得できるようにする。 F2:1-4, F3:1, 2  体育祭において、個々の運動能力を発揮するととも に、他の学生と協調しながら積極的にスポーツに取り組む 姿勢を養う。 F2:1-4, F3:1-5  バスケットボールの基礎技術 (パス, ドリブル, シュート) を修得し、試合中で、活用できるようにす る。また、ルールを把握しゲームを運営できるように する。 F2:1-4, F3:1-5  サッカーの基礎技術 (パス, ドリブル, シュート) を 修得し、ゲームの中で、活用できるようにする。ま た、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5  【保健】 喫煙・飲酒と感染症について理解する A1:2, 3 感染症と健康について A1:2, 3 思春期の性と加齢について理解する。 A1:2, 3 いろいろな社会の環境を理解する。 A1:2, 3			
評価方法	各種目の実技試験と平常点 (出席率, 授業態度) で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」(総合版) 大修館書店, 教科書「現代保健」(改訂版) 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	英語 I A English IA			担当教員	森 和憲・鳥越秀知・Johnston Robert		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220009	単位区別	履修
学習目標	読む、書く、聞く、話す、の英語の4技能の全体的な向上を目指し、基本的なコミュニケーション能力の育成を図る。これらの技能の養成の基礎として、基本的な文法や語彙の知識が必要とされるので、語彙や英文法の知識の修得も図る						
進め方	(森) 週2時間は、文法の演習問題を課題として与え、その解説を中心に授業を行う。定期的に単語の暗記テストを行う。定期的に英文法の小テストを行う (鳥越) 週1時間は、教科書を使ったリスニング、音読、暗唱、口頭発表等を単独授業で行う。 (Robert) 週1時間は、リスニングやスピーキングを中心に行う。(team teachingも含む)						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	文法学習 (14) (文型・動詞・時制・完了形) Scene 1~3 (7) Lesson 1~5 (7)			英語のネイティブ・スピーカーがスピードやポーズなどにかかなり配慮した時、身近なことに関する話や指示を単文レベルで理解することができる。 B1:1,2			
	----- [前期中間試験] (2)			検定教科書(高1対象)の本文や外国語学習者向けに易しい英語で書かれた物語を読んで、辞書を使えば内容の大筋を理解できる。 B1:1,2			
	試験問題の解説 (2) 文法学習 (13) (助動詞・不定詞・動名詞) Scene 4~6(7) Lesson 6~10 (6)			1人あたり3文程度の会話モデル文章を暗記し、ペアになって披露することができる。 B2:1,2			
	前期末試験			自分のことについて、名前や年齢、学年、誕生日、出身地などを英語で言うことができる。 B2:1,2			
	試験問題の解答 (2) 文法学習 (13) (分詞・比較・受動態) Scene 7~8(7) Lesson 11~15 (6)			簡単な単語と基本構文を用いて、与えられた日本語を英訳することができる。 B2:1,2			
	----- [後期中間試験] (2)			自分の意見や感想、または出来事の描写を辞書や機械翻訳を利用して、5~6文程度の英語で書くことができる。 B2:1,2			
	試験問題の解答(2) 文法学習 (13) (関係詞・仮定法・応用英文法) Scene 9~10(7) Lesson 16~20 (6)						
後期末試験							
評価方法	(森和) 中間・期末試験を70%、小テスト20%・提出物等を10%の比率で総合評価する。 (鳥越) 定期試験80%、課題・取組態度など20%の比率で総合評価する。 (Robert) Skit, 口頭テスト, 取組態度などで総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語 I B						
教材	『CO CET2600 理工系学生のための必修単語 2600』(成美堂) 英語辞書活用ノート (数研出版) GTEC for Student Basic (ベネッセ) SEED ENGLISH GRAMMAR 27UNITS と WORKBOOK および SEED 必修英文法 700 (文英堂) 『Departure Oral communication 1 Revised Edition』 (大修館) Hyper Listening Introductory 3rd Edition (桐原書店)						
備考	特になし						

科目名	英語 I B English IB			担当教員	水野 知津子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220010	単位区別	履修
学習目標	読む、書く、聞く、話す、の英語の4技能全ての向上を目指し、基本的な語学力（英検3級から準2級程度）を身につける。 さらに、青年期の学生にふさわしい内容の教材を用い、英語を通じての人的成長を目指す。						
進め方	英語は実技科目である。使わないと英語力はつかない。英語を声にだしてどんどん使ってもらおう。毎回の積極的授業参加が不可欠である。語彙、書き取り、音読等様々な小試験、パフォーマンス試験を行う。相手に対する配慮ができるといった将来に必要なコミュニケーション力育成のためにもペア・グループ活動を多く取り入れ、協働しながら共に力を伸ばしていく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	学習内容（14） オリエンテーション、自己紹介 Lesson 1～2（14）			英語のネイティブ・スピーカーがスピードやポーズなどにかなり配慮した時、身近なことに関する話や指示を単文レベルで理解することができる。 B1:1, 2			
	----- [前期中間試験] (1)			検定教科書(高1対象)の本文や外国語学習者向けに易しい英語で書かれた物語を読んで、辞書を使えば内容の大筋を理解できる。 B1:1, 2			
	試験問題の解説（1）  Lesson 3～5（14）						
	前期末試験			1人あたり3文程度の会話モデル文章を暗記し、ペアになって披露することができる。 B2:1, 2			
	試験問題の解答（1）  Lesson 6～8（14）						
	----- [後期中間試験] (1)			簡単な単語と基本構文を用いて、与えられた日本語を和訳することができる。			
	試験問題の解答(1)  Lesson 9～10（14）						
後期末試験			自分の意見や感想、または出来事の描写を辞書や機械翻訳を利用して、5～6文程度の英語で書くことができる。 B2:1, 2				
評価方法	中間・期末試験を75%、取り組み態度・パフォーマンステスト・小テスト・提出物等を25%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語 I A						
教材	One World Communication I（教育出版）、同ワークブック（教育出版）						
備考	理解度・定着度により進度を調整することがある。 担当教員への連絡先： mizuno@dg.kagawa-nct.ac.jp						

科目名	芸術 I (音楽) Art I (Music)			担当教員	穴吹昌子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	15220011	単位区別	履修
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞能力を伸ばす。音楽に対する関心を高め、想像力豊かな有為な人格を育成する。						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的技能と表現能力を伸ばす。</li> <li>・音に対する敏感な感性を育てる環境に配慮する。</li> </ul>						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 発声の基本	校歌	(2)	正しい姿勢や呼吸法を身に付ける。			
	2. 歌唱・器楽	少年時代, アメージング・グレース	(6)	歌と楽器による表現の違いを感じ取る。  歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2			
	-----						
	3. 試験	実技試験	(3)	歌と楽器による表現の違いを感じ取る。			
	4. 講義・鑑賞	音楽領域の拡大, 音楽療法	(3)	歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2			
	-----						
5. 歌唱・器楽	日本のうた	(4)	歌と楽器による表現の違いを感じ取る。				
6. 歌唱・器楽	英語のうた	(3)	歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2				
7. 歌唱・器楽	季節のうた	(4)	歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2				
-----							
8. 試験	筆記試験	(1)	歌と楽器による表現の違いを感じ取る。				
9. 歌唱・器楽	日本のうた	(4)	歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2				
-----							
-----							
評価方法	試験・提出物で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	芸術科目						
教材	教科書：「MOUSA I」 教育芸術社						
備考	特になし						

科目名	芸術 I (美術) Art I (Fine Arts)			担当教員	永井 崇幸		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	15220012	単位区分	履修
学習目標	写実描写, 構想画, デザイン画などの絵画表現や鑑賞を通して, 創造力を伸ばし, 豊かな感性と心情を養う。言葉では表現できないことを感じる美意識を深める。						
進め方	相対するイメージを比較することでその本質を見定め, イメージを膨らませて自己の表現を追求させる。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 鉛筆デッサン— ペンを持った手 (1)			鉛筆で明暗をつけ, 手の立体感と質感を表現する。  2 つの異なる物質を表現する際には, 質感や大きさなどが相互に関わりあうことを知る。  E6:1			
	2. 記憶の絵地図 (5) 着彩			自分がすごした幼児期・年少期を思い出し, 他人が見てわかりやすい表現をする。  自宅周辺をあらゆる絵画表現方法を使って, 分かりやすく楽しい絵地図として表現する。  B2:1			
	3. 構成と表現 (1) 色彩の学習 (1) (2) 「楽しい」と「悲しい」の表現 (3) 着彩 (3) 「寒い」と「暖かい」の表現 (5) 着彩 (4) 「軽い」と「重い」の表現 (6) 着彩			色の知覚・心理的効果を学習して, 効果的な色彩表現を学ぶ。  E6:1  枠の中に着色できる。混色が出る。 比較することで観念的でないイメージを膨らませる。  形と色によって, 言葉で表現できない表現が可能であることを認識する。			
4. 精密描写 (9) 鉛筆デッサン, 着彩			身近にある工業製品の精密描写を試みることで機能美, 材質の特性, ロゴマーク, 配色などを学習し, 立体的な表現が出来る。  B2:1  デッサンをして立体感のある表現をする。 何度も塗り重ねる透明水彩の技法を習得する。  E6:1				
評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。 学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価 (90%) (作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%), 制作態度 (10%) を考慮して総合的に評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	芸術 I (美術) (1年) → 芸術 II (美術) (2年)						
教材	スケッチブックと絵の具 (アクリルガッシュ) を購入。(2年間使用)						
備考	自主的に美術館・ギャラリーなどの鑑賞を奨励。鑑賞レポートは随時受け付け, 評価の対象にします。単位追認は, 未提出・未完成の作品を全て完成させて提出する。						

科目名	芸術 I (書道) Art I (Calligraphy)			担当教員	正田幸子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	15220013	単位区別	履修
学習目標	<p>国語科書写では、文字を正しく整えて書くことを目標としたが、芸術科書道では、書写の能力をさらに高め、書の美を追求していくことを目指す。</p> <p>書の表現と鑑賞の基礎能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、芸術としての書の美を学ばせ、書を愛好する心情を養う。</p>						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。</li> <li>・表現力を高め豊かにするには、すぐれた書を鑑賞し感性を養うことを心がけるようにする。</li> </ul>						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 書の美を求めて	(1)		書の美とは何かを考えさせる	A3:1		
	2. 楷書の学習の基本	(2)		書の基本形を把握する	B2:1		
	3. 厳正な楷書と温雅な楷書 九成宮醜泉銘と孔子廟堂碑の鑑賞と臨書	(2)		古典の臨書を通して、用筆、運筆、点画の形や線質、字形など表現技法を学習する。	B1:1		
	4. 重厚な楷書と軽快な楷書 建中告身帖と雁塔聖教序の鑑賞と臨書	(2)					
	-----						
	5. 行書の特徴	(1)		創作の手順を理解し作品づくりをする。	B2:1		
	6. 蘭亭序の鑑賞	(1)					
	7. 蘭亭序の臨書 (半紙)	(2)					
	8. 蘭亭序の臨書 (画仙紙半切)	(4)					
	-----						
	9. 行書による創作	(2)		「いろは歌」により基本的なものを身につける。	B1:1		
	10. 平仮名の単体	(2)					
	11. 変体仮名	(3)					
	-----						
12. 連綿	(2)		連綿の方法や仮名の流動美を理解する。	A1:3			
13. 漢字仮名交じりの書の学習	(2)		漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づける	B2:1			
14. 古名跡を応用しての表現	(2)						
15. 用筆・運筆および用具・用材の工夫	(2)						
-----							
評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教材	教科書：角井博他著「書道 I」 教育出版						
備考	特になし						

科目名	国語Ⅱ JapaneseⅡ			担当教員	東城 敏毅		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220014	単位区別	履修
学習目標	1. 現代文や古典の読解を通して、他人のものの見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。						
進め方	講義形式を基本とする。また論述演習・発表演習・相互議論も随時授業内に組み入れる。原則として週に1回漢字テストを実施する。						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. ガイダンス(2) (1) 現代文ガイダンス (2) 古典ガイダンス 2. 評論Ⅰ(12) (1) 「相手依存の自己規定」			物事の核心を把握する方法を身につける。 A3:1-2 日本人の思考・現代的な思考について考える。 A3:1-2 論理的な文章の代表的構成法を理解できる。			
	[前期中間試験](1)						
	4. 試験問題の解答(1) 5. 古典Ⅰ(14) — 『平家物語』 (1) 『平家物語』の基礎 (2) 「能登殿の最期」			代表的な古文を読み、人間・社会・自然について考えを深めたり広げたりすることができる。 A1:3			
	前期末試験						
	6. 試験問題の解答(1) 7. 古典Ⅱ(13) — 『源氏物語』 (1) 『源氏物語』の基礎 (2) 「小柴垣のもと」			代表的な古文を読み、人間・社会・自然について考えを深めたり広げたりすることができる。また日本人の思考方法を知り、自我意識の変革を促す。 A1:3, A3:1-2			
	[後期中間試験](1)						
	8. 試験問題の解答(1) 9. 表現Ⅰ・小説Ⅰ(13) — 『赤い繭』(安倍公房) (1) テーマの設定(班別討議) (2) プレゼンテーション演習(班別発表) (3) 相互議論(質疑応答) (4) レポート作成			文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。 多様な視点により柔軟な思考力を養う。 A1:3 データを効果的に説明する力を養う。 C1:1-2, C4:1-4 他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価することができる。 B1:1-2, B3:1-3 自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。 B2:1-2			
後期末試験(レポート2編)							
10. レポート採点評価と本年度のまとめ(1)							
評価方法	評価の内訳: 定期試験 70%, 授業内演習・提出物 20%, 漢字テスト 10%						
履修要件	特になし。						
関連科目	国語Ⅰ(1年) → 国語Ⅱ(2年) → 国語Ⅲ(3年) → 文学特論Ⅱ(4年) → 文学特論(専攻科2年)						
教材	教科書: 精選現代文B 東京書籍 三角洋一他編 教科書: 新編 古典B 教育出版 影山輝國他編 漢字: 【精選】速修常用漢字 [改訂版] 文英堂 谷本 文男 参考書: 新訂新国語便覧 第一学習社						
備考	特になし。						

科目名	歴史Ⅱ History II			担当教員	内田由理子		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220015	単位区別	履修
学習目標	我が国の歴史の展開を、我が国を取り巻く国際環境などとも関連づけながら世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化、伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。						
進め方	地球的視点から多面的に物事を考える能力：我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って多面的・多角的に捉えさせ、21世紀の課題についても考察する能力を育成する。年間の授業を通して、学習教育目標「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を培っていく。与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を重視するとともに、作業的な学習を取り入れ学習効果を高めるよう工夫する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 縄文時代、弥生時代の社会(4) 2. 大和政権の成立と勢力伸張(2) 3. 飛鳥時代の政治と律令国家の成立(3) 4. 奈良時代の政治と社会(2) 5. 平安時代の政治と社会(4)			旧石器時代から平安時代までの日本列島における社会・文化について、東アジア世界の動向と関連付けを踏まえて、原始社会の時期、国家の形成と律令体制の確立の時期、律令体制の変質の時期の3つの構成から学ぶ。  A1:3			
	[前期中間試験]						
	6. 答案返却・解答(1) 7. 鎌倉時代の政治と社会(2) 8. 室町時代の政治と社会(4) 9. 戦国の動乱(4) 10. 大航海時代の余波(1) 11. 織豊政権の成立と社会(3)			武家政権の成立から戦国時代までの社会・文化における武士が政治力をつけていく過程について、武家政権の成立期と武家政権の成長期の構成の中、世界的視野と国内諸地域への視点を踏まえて学ぶ。  A1:3			
	前期末試験						
	12. 答案返却・解答(1) 13. 江戸幕府の成立と幕藩体制の展開(4) 14. 幕政の改革と衰退(2) 15. 開国と社会の変動(2) 16. 尊王攘夷から倒幕(3) 17. 明治維新と新政府の成立(2) 18. 欧米文化の導入(1)			江戸時代における社会・文化について、封建的支配体制が作り上げられる幕藩体制の確立、町人文化が生み出された幕藩体制の展開、列強の接近に伴う幕藩体制の動揺の3つの構成から世界史的な流れと関連させて学ぶ。  A1:3			
	[後期中間試験]						
19. 答案返却・解答(1) 20. 自由民権運動の展開(2) 21. 日清・日露戦争, 第一次世界大戦(3) 22. 政党政治の発展と大衆社会(2) 23. 第二次世界大戦と戦後世界の形成と変容(3) 24. 55年体制と高度経済成長(2) 25. 冷戦終了と55年体制の崩壊(2)			明治時代から第二次世界大戦後の日本の歴史の展開について、近代日本が形成されていく過程と国際社会における日本の立場と対外政策の変化、今日に至る世界の動向と日本の課題及び役割について学ぶ。  A1:3				
後期末試験							
25. 答案返却・解答(1)							
評価方法	定期試験, 提出物（ノート, プリント, その他の課題）や学習活動等で総合評価する						
履修要件	特になし						
関連科目	世界史（2学年）→政治経済（3学年）						
教材	教科書：宮原武夫 他著「高校日本史B」実教出版						
備考	特になし						

科目名	公民 I Civics I			担当教員	山岡健次郎		
学年	2年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220016	単位区別	履修
学習目標	自己と社会との関係性を倫理的観点から考察していく。そのさい、「他者」、「自然」、「宗教」、「科学」といった問題性に着目する。過去の哲学者・思想家の思索に触れることで、多様なものの見方を身につけ、具体的な問題を自分自身で考える力を養うことを目指す。						
進め方	教科書および担当教員の作成する資料をもとにして、講義形式で進める。 テーマを設定し、討論も交えながら、倫理的問題に対する視角を深めていく。 なお、定期試験のほかに適宜レポートなどの課題も課していく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 「倫理」とは (2) 2. 青年期の課題と自己形成 (2) 3. ギリシャ思想・ソクラテス (2) 4. ギリシャ思想・プラトン (2) 5. ギリシャ思想・アリストテレス (2) 6. 生命倫理 (2) 7. 脳死と臓器移植 (2)			自己への問いかけを通して、自分自身を見つめ自分たちを取り巻く様々な環境の中で、他者と共に生きる大切さを理解させる。 A1:3  哲学の起源をたどる。 A3:2			
	[前期中間試験] (1)						
	8. 答案返却・解答 (1) 9. 宗教とは何か (2) 10. ユダヤ教 (2) 11. キリスト教 (2) 12. 仏教 (2) 13. イスラム教 (2) 14. 文化と宗教 (1) 15. オリエンタリズム (3)			古代宗教に対する理解を深める。 A3:1,2  現代社会の中で生じている様々な倫理的課題を理解する。 A1:1,2 A3:1,2			
	前期末試験						
	16. 答案返却・解答 (1) 17. ヒューマニズム (2) 18. 経験論と合理論 (2) 19. デカルト (3) 20. モラリストたち (2) 21. 自然と科学技術 (2) 22. リスク社会 (3)			近代科学の誕生と科学の発展がもたらす問題について考察する。 A3:1			
	[後期中間試験] (2)						
	23. 答案返却・解答 (1) 24. 「正しさ」の根拠を問いなおす (2) 25. 功利主義 (2) 26. J・ベンサムとJ・S・ミル (2) 27. カントの義務論 (3) 28. 差別や偏見のない社会へ (1) 29. 永久革命としての民主主義 (2)			善く生きることの意義について考察する。 A3:1			
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験 (90%)、提出物 (10%) によって評価						
履修要件	特になし						
関連科目	公民II (3学年)						
教材	教科書：『倫理』東京書籍						
備考	特になし						

科目名	基礎数学Ⅲ Fundamental Mathematics III			担当教員	田村恭士		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220017	単位区別	履修
学習目標	この科目では、主に次のことを学習する： ・複素数と方程式 ・指数関数と対数関数 ・ベクトルの性質と図形への応用						
進め方	授業は教科書を中心教材として、講義と演習をおりまぜて行う。適宜レポートなど提出課題を課すことがある。進度が速いので、予習復習は必須である。とくに、授業時間内でなくてもできる計算練習には、授業時間外に各自で取り組むことを要する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 指数・対数(15) (1) 指数の拡張(3) (2) 指数関数(3) (3) 対数(3) (4) 対数関数(3) ----- [前期中間試験](2)			指数に関する基本的な計算ができる。		D1:1, 2	
				対数に関する基本的な計算ができる。		D1:1-3	
	2. 複素数と方程式、式と証明(28) (1) 二項定理(2) (2) 整式と除法(2) (3) 分数式(2) (4) 複素数(3) (5) 2次方程式(5) 前期末試験			分数式の基本的な四則演算ができる。		D1:1, 2	
				2次方程式を扱うことができる。		D1:1-3	
	(6) 試験問題の解答(1) (7) 因数定理(3) (8) 高次方程式(3) (9) 等式と不等式の証明(6) ----- [後期中間試験](2)			因数定理を活用することができる。		D1:1, 2	
				式の証明の基本的な方法を扱うことができる。		D1:1-3	
評価方法	4回の定期試験の得点を平均したものを90%、宿題・レポートなどの提出物、小テスト、授業への取り組みを10%で評価する。						
	履修要件	特になし					
	関連科目	{基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ} → {基礎数学Ⅲ, 微分積分学Ⅰ} → {微分積分学Ⅱ, 数学解析}					
教材	教科書：「新編数学Ⅱ」（東京書籍）, 「新 線形代数」（大日本図書） 演習書：「アシストセレクト 新編数学Ⅱ」（東京書籍）, 「新 線形代数 問題集」（大日本図書） 参考書：「チャート式基礎と演習 数学Ⅱ+B」（数研出版）						
備考							

科目名	微分積分学 I Differential and Integral Calculus I			担当教員	南貴之, 上原成功, 中空大幸		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220018	単位区別	履修
学習目標	この科目では、主に次のことを学習する： ・微分積分のための準備（数列，いろいろな関数） ・微分積分について，概念の理解，用語・記号・定義式・公式への習熟，基本的な計算および応用						
進め方	教科書にそって講義する。基本事項と例題を解説したのち，問を演習する。章ごとの演習問題 AB やチャート式の問題を宿題として課す。一般演習において小テストを実施する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 数列と極限(30) (1) 等差数列と等比数列(6) (2) いろいろな数列と和(6) (3) 漸化式と数学的帰納法(8) (4) 数列の極限(8) ----- [前期中間試験] (2)			簡単な数列の和が求められる。 D1:3  数学的帰納法を用いて簡単な命題の証明ができる。 D1:3			
	前期末試験						
	2. 微分の基礎(45) (1) 分数関数(3) (2) 無理関数(3) (3) 関数の極限(8) (4) 微分係数と導関数(8) (5) いろいろな微分公式(6) ----- [後期中間試験] (2)			いろいろな関数を扱うことができる。 D1:3  数列及び関数の極限が計算できる。 D1:3			
	前期末試験						
	3. 積分の基礎(45) (1) 不定積分(12) ----- [後期中間試験] (2)			いろいろな関数の導関数が計算できる。 D1:3			
	後期末試験						
5. 試験問題の解答(1) (2) 不定積分(3) (3) 定積分(16) (4) 面積・体積(10) ----- [後期中間試験] (2)			簡単な不定積分と定積分の計算ができる。 D1:3				
後期末試験							
5. 試験問題の解答(1)							
評価方法	定期試験を 90%程度とし，小テスト，宿題，授業中の発表などを残りの 10%として評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学 I, 基礎数学 II} → {基礎数学 III, 微分積分学 I} → {微分積分学 II, 数学解析}						
教材	教科書：「LIBRARY 工学基礎 & 高専 TEXT 微分積分」(数理工学社)， 「チャート式基礎と演習 数学 II + B」, 「チャート式基礎と演習 数学 III」(数研出版)						
備考							

科目名	数理演習 Science Seminar			担当教員	黒木 経秀		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	15220019	単位区別	履修
学習目標	演習形式で実際に問題を解く事により、1, 2年で学ぶ理数系教科の基礎学力を定着する。						
進め方	毎回、宿題を課し、授業でその解説を行う。また、適宜、宿題の内容についての小テストを行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 物体の運動(1) 2. 落体の運動(1) 3. いろいろな力と力のつりあい(2) 4. 運動の法則(1) 5. 仕事と力学的エネルギー(1)			速度、加速度、運動の法則を理解し、さまざまな運動において運動方程式を立てて、解くことができる。 D1:1,2  仕事の計算ができ、力学的エネルギーの保存則を用いた計算ができる。 D1:1,2			
	[前期中間試験](1)						
	6. 答案返却・解説(1) 7. 運動量と力積(2) 8. 等速円運動(2) 9. 惑星の運動と万有引力(1) 10. 単振動(1)			運動量、力積を理解し、運動量保存則を用いた計算ができる。 D1:1,2  円運動など力の向きが一定でない物体の運動に関する計算ができる。 D1:1,2			
	前期末試験						
	11. 答案返却・解説(1) 12. 波動(6) (1) 波の性質 (2) 音波 (3) 光波			波動の概念を理解し、典型的な例である音波、光波の性質について理解し、計算できる。 D1:1,2			
	[後期中間試験](1)						
	13. 答案返却・解説(1) 14. 熱力学(6) (1) 熱とエネルギー (2) 気体の状態変化と熱力学第1法則 (3) 熱力学第2法則と気体分子の熱運動			熱力学の基本的な法則を理解し、熱力学量を計算できる。 D1:1,2			
後期末試験							
15. 答案返却・解説(1)							
評価方法	定期試験 70%, 平常点(小テスト, 宿題, 提出物など)30%の比率で総合的に評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	物理 I (1年) → 物理 II (2年), 数理演習(2年)						
教材	配布するプリント 教科書: 三浦 昇 他 著 「物理基礎」東京書籍 三浦 昇 他 著 「物理」東京書籍 問題集: 数研出版編集部 編 「リードα物理基礎・物理」 数研出版						
備考	オフィスアワーは、水曜の放課後とする。						

科目名	物理Ⅱ Physics II			担当教員	長谷部一気		
学 年	2年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分 野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	15220020	単位区分	履修
学習目標	工学の基礎となる物理学の基本的な概念や原理、法則を理解し、数式として表現することで、科学的な考え方を定着させる。						
進め方	前期は、力学の基礎と波動の理解を深め、その普遍的な性質を議論する。後期は、熱物理と実験を通じ、物理学の考え方、実験手法を習得するよう進める。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 平面上の運動（3） 2. 運動量と力積（3） 3. 円運動（3） 4. 単振動（3） 5. 万有引力（3） 6. 波の表し方（3） 7. まとめ（3） [前期中間試験]（2）			運動量、振動、万有引力、波の基礎的概念について習得する。D1:1-3			
	8. 試験問題の解答（1） 9. 正弦波、エネルギー（3） 10. 干渉と重ね合わせの原理（3） 11. 定常波（3） 12. 音波（3） 13. 発音体の固有振動（3） 14. ドップラー効果（3） 15. まとめ（3） 前期期末試験			波の典型的な例である、音についての性質について習得する。D2:1-3			
	16. 試験問題の解答（1） 17. 光波の性質（3） 18. 回折、干渉、偏光（3） 19. 温度と熱（3） 20. 比熱、熱容量（3） 21. 熱力学第一法則（3） 22. エントロピー（3） 23. 授業評価アンケートなど（1） 24. 一般物理実験準備（3） [後期中間試験]（2）			熱力学についての基本的な事柄と熱力学量についての理解ができています。D1:1-3			
	25. 試験問題の解答（1） 26. 実験【A:密度測定、B:向心力、C:重力加速度】（4） 27. 実験【D:サールの実験、E:固体の比重】（4） 28. 実験【F:熱膨張係数、G:固体の比熱】（4） 29. 実験【H:熱の仕事当量 など】（4） 30. まとめなど（3）			（左記のテーマの中から 3~4 人で 1 グループを形成し 2 又は 3 週間毎の輪番で実験を行う。） 実験終了一週間後に報告書を提出。 B1:2,B2:1,B3:1,C1:1,E6:1-3,E1:1,2,D5:2			
	[後期中間試験]（2）						
評価方法	前期は定期試験を行い、その結果を重視した評価を行う。 後期は、試験、実験レポートを行い、評価を行う。 課題レポート（ノート）の課題を出す。テスト 70%、課題 30パーセントの割合で評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	数学、化学						
教 材	教科書：三浦 昇 他 著 「物理基礎」「物理」 東京書籍、参考書：渡辺 久夫著 親切的な物理 物理実験書：下村 健次 著 基礎物理学実験 増訂版 問題集：数研出版編集部 編 「リードα 物理基礎・物理」						
備 考	参考書の内容のまとめ、問題を解答のレポートの提出を課すことがある。 オフィスアワーは、月曜の放課後(16:20~17:00)とする。						

科目名	化学Ⅱ Chemistry II			担当教員	中村篤博		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	15220021	単位区分	履修
学習目標	物質の状態変化によって起こる諸現象について理解し、反応一般論として反応速度、化学平衡の法則を理解する。有機化学では、有機化合物の体系的把握をし、その性質、反応性が主として各種官能基、結合種、分子構造によることを理解する。また、実験を通して、既習の化学知識の実体験と実験技術を習得する。						
進め方	教科書と板書を中心に基礎概念・理論を簡潔に解説する。その後、演習の機会を与え、より一層の理解が深めることができるように進める。また、実験を行うことで、講義で扱った内容を体験するとともに、方法、結果、考察などをレポートとしてまとめる。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 粒子の結合と結晶の構造、物質の三態(6) (1) 化学結合 (2) 分子の極性と分子間力 (3) 粒子の熱運動 (4) 三態の変化			原子の構造と電子配置の規則性を理解し、簡単な化合物の形成を説明できる。また、物質の三態とその状態変化を説明できる。 D1:1-3,D3:1			
	2. 気体(7) (1) 気体の体積 (2) 気体の状態方程式			気体の法則に基づく温度、体積、圧力の関係について理解し、計算問題ができる。 D1:1-3,D3:1			
	[前期中間試験](1)						
	3. 答案返却・解答(1)						
	4. 溶液(5) (1) 溶解のしくみと溶解度 (2) 希薄溶液の性質 (3) コロイド溶液			溶解の仕組みと溶液の性質を理解し、計算問題ができる。 D1:1-3,D3:1			
	5. 化学反応とエネルギー(5) (1) 熱化学方程式 (2) ヘスの法則			化学反応における量的な関係と反応熱を理解し、熱化学方程式を解くことができる。 D1:1-3,D3:1			
	6. 化学実験①(4)			+実験の基礎知識を持ち、事故への対処方法を理解し、対応ができる。また、試薬の調整ができ、測定と測定値の取り扱いができる。 D1:1,3,E1:1,2			
	前期末試験						
	7. 答案返却・解答(1)						
8. 化学反応の速さとしくみと化学平衡(9) (1) 反応速度の表し方 (2) 反応条件と反応速度 (3) 反応の仕組みと反応速度 (4) 可逆反応と化学平衡 (5) 平衡の移動と平衡定数 (6) 電解質溶液の化学平衡			化学反応を起こすための仕組みを理解し、反応速度を変えるための条件を説明できる。また、平衡状態を理解し、平衡の移動を判断できる。 D1:1-3,D3:1				
9. 化学実験②(4)			無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。実験器具を、目的に応じて選択して、使うことができる。また、レポート作成の手順を理解する。 D1:1,3,E1:1,2				
[後期中間試験](1)							
10. 答案返却・解答(1)							
11. 化学基礎総合演習(2)							
12. 四国地区化学共通試験(1)			物質の構成と化学結合、物質の変化といった高専化学の基礎を理解している。 D1:1-3,D3:1				
13. 有機化合物の性質(2)							
14. 脂肪族化合物(8) (1) 炭化水素 (2) アルコールと関連化合物 (3) 有機化合物と人間生活			各種有機化合物の性質を理解し、構造式の決定ができる。また、各種有機化合物間の関係について理解している。 D1:1-3,D3:1				
後期末試験							
15. 答案返却・解答(2)							
評価方法	前期は、定期試験を 80%、提出物を 20%で評価する。後期は、定期試験を 80%、提出物を 10%、四国地区化学共通試験を 10%で評価する。前期と後期の平均を学年総合とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	化学Ⅰ(1年) → 化学Ⅱ(2年) → 環境と人間(4,5年)						
教材	教科書：化学 数研出版(104 数研 化学/306)						
備考	オフィスアワーは、火曜の放課後とする。						

科目名	保健・体育Ⅱ Health and Physical EducationⅡ			担当教員	横山学		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	15220022	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明した上で、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。 団体種目については、個人の基礎技術を習得した上で、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール 説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	【ソフトボール】 1. 捕球・送球の基礎技術(2) 2. バッティングの基礎技術(2) 3. ルール説明(1) 4. ゲーム(5) 5. 実技試験 (1)			ソフトボールの基礎技術（捕球・送球・バッティ ング）を理解し、向上を目指す。また、ルールを把握し ゲームを運営できるようにする。 F2:1-4, F3:1-5			
	【マット運動】 6. 基礎技術の修得(8)			マット運動の基礎技術を修得し、自己の能力に適した 技を選んだ上で、連続的に表現できるようにする。 F3:1, 2			
	[前期中間試験]						
	7. 実技試験(1)						
	【水泳】 8. 各種目練習(2) 9. リレー・メドレーリレー(1) 10. タイム測定(1) 11. 体育祭および練習(7)			水に慣れると共に、各競泳種目を理解し、それらの泳 ぎの向上を目指す。 F2:1-4, F3:1, 2			
	前期末試験						
	【陸上競技】 12. 3種競技の基礎技術(7) 13. 記録測定(3)			個人の運動能力を向上させると共に、走跳投 3 種目の 技術を修得する。 F2:1-4, F3:1, 2			
	【スポーツテスト】 14. 記録測定(4)			毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4			
	[後期中間試験]						
【サッカー】 15. 試験説明・ルール説明(1) 16. ゲーム(5) 17. 実技試験(1)			ルールとシステムを理解し、ゲームを運営できるよ うにする。 F3:1-5				
【バスケットボール】 18. ルール説明・シュート練習(1) 19. ゲーム(6) 20. 実技試験(1)			2人以上のプレイを理解し、ゲームの中で活用でき るようにする。また、ルールを把握し、ゲームを運営で きるようにする。 F2:1-4, F3:1-5				
後期末試験							
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	英語 II A English II A			担当教員	畑 伸興・鳥越秀知		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220023	単位区別	履修
学習目標	英語でのコミュニケーションに必要な基本的な読解力と文法力及びリスニング能力の定着を目指す。						
進め方	①読解の教科書を使用し、読解力の強化を図る。 ②英文法・語法の問題集を使用し、文法力の強化を図る。 ③聴解の教科書を使用し、聴解力の強化を図る。 ④単語集を使用し、単語力の強化を図る。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	①Lesson 1-3 (7) ②動詞・時制・助動詞 (7) ③Unit 1-10 (8)			英語のネイティブ・スピーカーがスピードやポーズなどにある程度配慮した時、日常生活での話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 B1:1,2			
	----- [前期中間試験] 試験問題の解答 (1) ①Lesson 4-5 (7) ①不定詞・動名詞・分詞 (7) ③Unit 1-10 (8)			検定教科書(高2対象)の本文や外国語学習者向けに易しい英語で書かれた物語を読んで内容の大筋を理解できる。外国語学習者向けに易しい英語で書かれた物語(Y.L.0.5以上)を辞書無しで読むことができる。 B1:1,2			
	前期末試験 試験問題の解答 (1) ①Lesson 6-8 (7) ②比較・関係詞 (7) ③Unit 10-20 (7)			簡単な単語と基本構文を用いて、ショートスキットを作ることができる。 B2:1,2			
	----- [後期中間試験] 試験問題の解答 (1) ①Lesson 9-10 (7) ②前置詞・接続詞 (7) ③Unit 10-20 (7)			与えられた身近なテーマに対して自分の経験や考えについて、辞書や機械翻訳を利用して、10～15文程度の文章を間違いを恐れることなく、論理的に書くことができる。 B2:1,2			
	後期末試験 試験問題の解答 (1)						
	評価方法	年4回の定期試験を80%、授業への取り組み状況20%(ノート・プリント点検および提出物)で総合評価する。聴解試験は前期期末試験、後期学年末試験で、年2回実施する。					
履修要件	特になし						
関連科目	英語 I A・B (1年) → 英語 II A (2年) → 英語 III A・B (3年)						
教材	①New Stream II (増進堂) ②ベストポイント 英語頻出問題 740 (桐原書店) (英語 II Bと併用) ③HyperListening Elementary 3 <sup>rd</sup> Edition (桐原書店) ④COCCE2600 (1年次で使用)						
備考	定期試験だけではなく、日頃の授業も大切であるので、いつも勉強意欲をもってほしい。						

科目名	英語 IIB English IIB			担当教員	森 和憲		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220024	単位区別	履修
学習目標	読む、書く、聞く、話す、の英語の4技能全ての向上を目指し、基本的な語学力（英検準2級から2級程度）および教養を身につける。さらに、青年期の学生にふさわしい内容の教材を用い、英語を通じての人的成長を目指す。						
進め方	1. リーディング教材を解く 2. 多読教材を読み、読書記録をつける 3. 文法の演習問題を課題として与える 4. 自由英作文						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	多読・文法学習（14） 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 文法教材を宿題として提出 教科書 Unit 1-3			検定教科書(高2対象)の本文や外国語学習者向けに易しい英語で書かれた物語を読んで内容の大筋を理解できる。 B1:1-2			
	[前期中間試験] (1)			外国語学習者向けに易しい英語で書かれた物語(Y.L. 0.5以上)を辞書無しで読むことができる。 B1:1-2			
	試験問題の解説 (1) 多読・文法学習 (14) 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 文法教材を宿題として提出 教科書 Unit 4-6						
	前期末試験			与えられた身近なテーマに対して自分の経験や考えについて、辞書や機械翻訳を利用して、10～15文程度の文章を間違いを恐れることなく、論理的に書くことができる。 B2:1-2			
	試験問題の解説 (1) 多読・文法学習 (14) 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 文法教材を宿題として提出 教科書 Unit 7-9						
	[後期中間試験] (1)						
	試験問題の解説 (1) 多読・文法学習 (14) 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 文法教材を宿題として提出 教科書 Unit 10-13						
後期末試験							
評価方法	各試験の評価の内訳は定期試験60%、多読記録帳10%、小テストを20%、課題等の提出物を10%とする。						
履修要件	なし。						
関連科目	英語 I						
教材	『ベストポイント英語頻出問題 740』（桐原書店） 角山照彦 English with Hit Songs -New Edition-ポップスで学ぶ総合英語 -改訂新版-（成美堂） 亀山太一『CO CET2600 理工系学生のための必修単語 2600』（成美堂）						
備考	オフィスアワーは放課後随時（17時までに来室のこと）						

科目名	芸術 II (音楽) Art II (Music)			担当教員	穴吹昌子		
学 年	2 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分 野	一般	授業形式	実技・講義	科目番号	15220025	単位区別	履修
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞能力を伸ばす。音楽に対する関心を高め、想像力豊かな有為な人格を育成する。						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的技能と表現能力を伸ばす。</li> <li>・音に対する敏感な感性を育てる環境に配慮する。</li> </ul>						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 歌唱・器楽	ジュピター	(2)	正しい姿勢や呼吸法を身に付ける。			
	2. 講義・鑑賞	古代ギリシア 中世 ルネサンス バロック	(6)	歌と楽器による表現の違いを感じ取る。 歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2			
	-----						
	3. 試験	実技試験	(3)	歌と楽器による表現の違いを感じ取る。			
	4. 講義・鑑賞	古典派	(3)	歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2			
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	5. 講義・鑑賞	古典派	(4)	歌と楽器による表現の違いを感じ取る。			
	6. 歌唱・器楽	日本のうた	(4)	歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2			
	7. 歌唱・器楽	季節のうた	(2)	歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2			
	-----						
	8. 講義・鑑賞	ロマン派	(4)	歌と楽器による表現の違いを感じ取る。			
9. 講義・鑑賞	近代・現代	(2)	歴史を奏でる名曲を聴く。 A1:3 B1:1 B2:1,2				
-----							
評価方法	試験・提出物で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	芸術科目						
教 材	教科書：「MOUSA I」 教育芸術社						
備 考	特になし						

科目名	芸術Ⅱ (美術) Art II (Fine Arts)			担当教員	永井 崇幸		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	15220026	単位区分	履修
学習目標	構想画, デザイン画, あらゆる表現方法による絵画表現を通して, 個々の創造力を伸ばし, 豊かな感性と心情を養う。イメージを膨らませて, 自主的に創造する価値と喜びを感じさせる。						
進め方	絵画表現を通して, 独自のイメージを膨らませ, 自己の表現を追求させる。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 構想画 - 未来都市を描く (10) 着彩			<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿ったイメージは, どのようにして引き出すことができるかを考える。</li> <li>・CGの発達により, 意識のないままに仮想現実 (バーチャルリアリティ) があふれていることを認識する。それらのイメージを再構成して, 独自のイメージとして表現することができる。</li> <li>・幾つかの制作条件のもとで, 未来の都市空間を豊かなイメージを膨らませて表現することができる。</li> <li>・直線・曲線を使い分けて建造物と都市空間を表現することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">E6:1 B2:1</p>			
	2. デザインと描写 はめ絵「理想の世界」 - 定められた空間の構成 (10) 着彩			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でデザインする外形を決定する。</li> <li>・指定された条件下で定型の形を生かして表現することができる。</li> <li>・デザイン的な色面構成の中に精密な描写をすることができる。</li> <li>・制作に必要な資料を準備し, テーマに沿った表現ができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">E6:1 B2:1</p>			
	3. 自由制作 (10) 着彩			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の制作に必要な参考の資料を準備する。</li> <li>・あらゆる絵画表現手段を用いて作品制作する。</li> <li>・自分の定めたテーマを感性豊かに表現することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">E6:1 B2:1</p>			
評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。 学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価 (90%) (作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%), 制作態度(10%)を考慮して総合的に評価する。						
履修要件	美術Ⅰを履修している。						
関連科目	芸術Ⅰ(美術) (1年) → 芸術Ⅱ(美術) (2年)						
教材	スケッチブックと絵の具 (アクリルガッシュ) を購入。(2年間使用)						
備考	自主的に美術館・ギャラリーなどの鑑賞を奨励。鑑賞レポートは随時受け付け, 評価の対象にします。 単位追認は, 未提出・未完成の作品を全て完成させて提出する。						

5 科目名	芸術Ⅱ（書道） Art II (Calligraphy)			担当教員	正田幸子		
学 年	2年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分 野	一般	授業形式	実技	科目番号	15220027	単位区別	履修
学習目標	これまでの学習内容と関連づけながら、表現と鑑賞の能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、書之美への探求がより充実、深化したものとなるようにする。						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。</li> <li>・多様な書之美への関心と鑑賞の必要性を理解させ、美を追求する姿勢を確立させる。</li> </ul>						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 書之美を求めて (1)	(1)		書が求める美とは何かを考える	A3:1		
	2. 篆書の学習(1) さまざまな篆書	(1)					
	3. 石鼓文の鑑賞と臨書	(2)		特徴を確かめ、その特性を確認する	A3:1		
	4. 金文の鑑賞と臨書	(2)		それぞれの特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする	A3:2		
	-----						
	5. 隷書の学習 さまざまな隷書	(1)		特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする	A3:2		
	6. 隷書の特徴	(2)		特徴を確かめ、その特性を確認する	A3:2		
	7. 曹全碑の鑑賞と臨書	(2)					
	8. 行草書の学習(4) 風信帖の鑑賞と臨書	(4)					
9. 行書の創作	(3)		漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づけるようにする。	B2:1			
10. 楷書の学習 整齊の美と均衡の美	(3)						
11. 仮名の書の学習 種類、特徴	(2)						
-----							
12. 漢字仮名交じりの書の学習	(1)		漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づけるようにする。	B2:1			
13. 書体の趣を生かした表現の工夫	(2)						
14. 古名跡を応用しての表現	(2)						
16. 全体構成の工夫	(2)						
-----							
評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教 材	教科書：今井凌雪著「新編 書道Ⅱ」 教育出版						
備 考							

科目名	国語Ⅲ JapaneseⅢ			担当教員	東城 敏毅			
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220028	単位区別	履修	
学習目標	1. 現代文や古典の読解を通して、他人のものの見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。							
進め方	講義形式を基本とする。また論述演習・発表演習・相互議論も随時授業内に組み入れる。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. ガイダンス（2） 2. 古典Ⅰ（12） (1) 漢文の基礎 (2) 老・荘思想 「小国寡民」「混沌」 「桃花源記」 ----- [前期中間試験]（1）			代表的な漢文を読み、人間・社会・自然について考えを深めたり広げたりすることができる。 A1:3				
	3. 試験問題の解答（1） 4. 評論Ⅰ（12） (1) 「言語と記号」 5. 表現Ⅰ（2） (1) 「言語と記号」に関する小論演習 ----- 前期末試験			論理的な文章の代表的構成法を理解できる。また、現代思想の思考方法を知り、自我意識の変革を促す。 A1:3, A3:1-2 多様な視点により柔軟な思考力を養う。 A1:3 データを効果的に説明する力を養う。 C1:1-2, C4:1-4				
	6. 試験問題の解答（1） 7. 古典Ⅱ（13） (1) 「安積山」（大和物語） (2) 「阿部仲麻呂の歌」（土佐日記） ----- [後期中間試験]（1）			日本の古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3 日本人の思考・現代的な思考について考える。 A3:1-2				
	8. 試験問題の解答（1） 9. 表現Ⅱ（13） (1) レポート・論文を書く技術 (2) テーマを絞る技術 (3) 型を守って書く技術 (4) 「科学技術」に関する小論演習 ----- 後期末試験			日本人の思考方法を知り、自我意識の変革を促す。 A1:3, A3:1-2 多様な視点により柔軟な思考力を養う。 A1:3 データを効果的に説明する力を養う。 C1:1-2, C4:1-4				
	10. 試験問題の解答（1）							
	評価方法	評価の内訳： 定期試験 60%，授業内演習 20%，提出物 20%						
	履修要件	特になし。						
	関連科目	国語Ⅰ（1年）→国語Ⅱ（2年）→国語Ⅲ（3年）→文学特論Ⅱ（4年）→文学特論（専攻科2年）						
	教材	教科書：精選現代文B 東京書籍 三角洋一他編 教科書：新編 古典B 教育出版 影山輝國他編 参考書：新訂新国語便覧 第一学習社						
備考	特になし。							

科目名	国語Ⅲ JapaneseⅢ			担当教員	富士原伸弘			
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220028	単位区別	履修	
学習目標	1. 現代文や古典の読解を通して、他人のものの見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。							
進め方	講義形式を基本とする。また論述演習・発表演習・相互議論も随時授業内に組み入れる。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. ガイダンス（2） 2. 古典Ⅰ（12） (1) 漢文の基礎 (2) 老・荘思想 「小国寡民」「混沌」 「桃花源記」 ----- [前期中間試験]（1）			代表的な漢文を読み、人間・社会・自然について考えを深めたり広げたりすることができる。 A1:3				
	3. 試験問題の解答（1） 4. 評論Ⅰ（12） (1) 「言語と記号」 5. 表現Ⅰ（2） (1) 「言語と記号」に関する小論演習 ----- 前期末試験			論理的な文章の代表的構成法を理解できる。また、現代思想の思考方法を知り、自我意識の変革を促す。 A1:3, A3:1-2 多様な視点により柔軟な思考力を養う。 A1:3 データを効果的に説明する力を養う。 C1:1-2, C4:1-4				
	6. 試験問題の解答（1） 7. 古典Ⅱ（13） (1) 清女と紫女（枕草子・紫式部日記） (2) 源氏物語の女性たち（源氏物語・更級日記） ----- [後期中間試験]（1）			日本の古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3 日本人の思考・現代的な思考について考える。 A3:1-2				
	8. 試験問題の解答（1） 9. 表現Ⅱ（13） (1) レポート・論文を書く技術 (2) テーマを絞る技術 (3) 型を守って書く技術 (4) 小論演習 ----- 後期末試験			日本人の思考方法を知り、自我意識の変革を促す。 A1:3, A3:1-2 多様な視点により柔軟な思考力を養う。 A1:3 データを効果的に説明する力を養う。 C1:1-2, C4:1-4				
	10. 試験問題の解答（1）							
	評価方法	評価の内訳： 定期試験 60%，授業内演習 20%，提出物 20%						
	履修要件	特になし。						
	関連科目	国語Ⅰ（1年）→国語Ⅱ（2年）→国語Ⅲ（3年）→文学特論Ⅱ（4年）→文学特論（専攻科2年）						
	教材	教科書：精選現代文B 東京書籍 三角洋一他編 教科書：新編 古典B 教育出版 影山輝國他編 参考書：新訂新国語便覧 第一学習社						
備考	特になし。							

科目名	公民Ⅱ Civics II			担当教員	山岡健次郎		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220029	単位区別	履修
学習目標	政治経済に関する固定的な知識に囚われず、揺れ動く状況を読み解く視座を養っていく。 とりわけグローバル化の進行する現代社会にあつては、既存の認識枠組みはもはや有効性を失いつつある。 国家単位の発想をいかに乗り越えるのか、という視点が問題の核をなす。						
進め方	前期は政治に関する認識を深めていき、後期は経済事象を理解する力を養っていく。 授業は、教科書を中心に講義形式で進めていく。 さらに、できるだけ時事的な事象を取り上げ、メディアの読み解き方を実践的に紹介していく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. イントロダクション (2) 2. 民主政治の基本原則 (6) (1) 民主政治の成立 (2) 基本的人権の確立 3. 日本国憲法の基本原則 (6) (1) 日本国憲法の制定と基本原則 (2) 平和主義			政治という人間活動の特徴を理解する。 A2:1  憲法の根本原則を把握する。 A1:3, A3:2			
	[前期中間試験] (1)						
	4. 答案返却・解答 (1) 5. 日本の政治機構 (4) 6. 現代政治の特質と課題 (5) (1) 戦後政治と政党 (2) 世論と政治参加 7. 現代の国際政治 (5) (1) 国際社会の組織化と変容 (2) 地球環境と資源・エネルギー問題			統治の仕組みを説明できる。 A3:1  政党の役割とメディアの果たす機能について学ぶ。 A2:1, A2:2  国際社会の共同のあり様と地球環境保全の取り組みについて学ぶ。 A1:2, A3:3			
	前期末試験						
	8. 答案返却・解答 (1) 9. 現代の資本主義市場経済 (6) (1) 市場経済とは (2) 産業資本主義の成り立ち 10. 現代経済のしくみ (7) (1) 経済主体と経済の循環 (2) 生産のしくみと企業 (3) 金融・財政のしくみと機能			資本蓄積過程を把握し、労働力商品化のプロセスを論理的に説明できる。 A3:1  現代経済の動態を構造的に捉えることができる。 A3:1			
	[後期中間試験] (1)						
	11. 答案返却・解答 (1) 12. 日本経済の発展と産業構造の変化 (4) 13. 福祉社会と日本経済の課題 (4) 14. 国民経済と国際経済 (5) (1) 貿易と国際収支 (2) グローバル化する世界経済			若者の就業難や少子高齢化といった社会問題に直面する日本社会の現状を歴史的に把握する。 A1:1, A3:2  資本がグローバルに展開する過程を動的に捉える。 A3:1			
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験 (90%)、提出物 (10%) によって評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	公民Ⅰ (2学年)						
教材	教科書：『政治・経済』東京書籍						
備考	特になし						

科目名	微分積分学Ⅱ Differential and Integral Calculus II			担当教員	南貴之, 田村恭士		
学 年	3 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220030	単位区別	履修
学習目標	この教科では、微分積分学Ⅰに引き続き、微分積分のより進んだ内容と応用（関数の増減、面積、体積など）を学習する。						
進め方	指定教科書にそって学習内容を解説して行く講義形式。各自の自主的な学習が必要なのはいうまでもなく、練習問題を通して学習内容の定着を目指す。前期は第 2 学年「微分積分学Ⅰ」の続きを学習する。後期では偏微分及び 2 重積分をも取り扱う。基本的な概念の理解の上で、さまざまな計算ができることを重視する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 微分法の応用(19) (1) 接線と法線 (2) 平均値の定理 (3) 関数の増加・減少と極大・極小 (4) 関数のグラフ (5) いろいろな応用			微分係数の意味を理解し、接線と法線の方程式を計算できる。 D1:3 基本的な関数の極値を計算できる。 D1:3			
	2. 不定積分 (13) (1) 不定積分とその性質 (2) 置換積分法 ----- [前期中間試験] (2)			基本的な関数の不定積分を計算できる。 D1:3 置換積分法を用いて基本的な関数の不定積分を計算できる。 D1:3			
	(3) 試験問題の解答 (4) 部分積分法 (5) いろいろな関数の不定積分			部分積分法を用いて基本的な関数の不定積分を計算できる。 D1:3			
	3. 定積分(18) (1) 定積分とその性質 (2) 定積分の置換積分法・部分積分法 (3) 定積分と和の極限			基本的な関数の定積分を計算できる。 D1:3 置換積分法と部分積分法を用いて基本的な関数の定積分を計算できる。 D1:3			
	前期末試験						
	(4) 試験問題の解答 (5) 定積分と不等式			定積分を用いていろいろな極限の計算ができる。 D1:3			
	4. 積分法の応用(20) (1) 面積 (2) 体積 (3) 曲線の長さ (4) 微分方程式 ----- [後期中間試験] (2)			簡単な図形の面積や体積が計算できる。 D1:3  簡単な微分方程式を解くことができる。 D1:3			
	(5) 試験問題の解答						
	5. 偏微分法(20) (1) 2変数関数の定義、極限 (2) 学習到達度試験(*) (3) 偏導関数 (4) 接平面 (5) 合成関数の微分法 (6) 2変数関数の極値 後期末試験 (7) 試験問題の解答			偏微分の意味を理解し、基本的な 2 変数関数の偏導関数を計算できる。 D1:3  2 変数関数の極値を求めることができる。 D1:3			
評価方法	定期試験 90%，レポートなどを 10%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ} → {基礎数学Ⅲ, 微分積分学Ⅰ} → {微分積分学Ⅱ, 数学解析} → 応用数学						
教 材	教科書：「数学Ⅲ」（実教出版），高遠節夫他著「新 微分積分Ⅱ」（大日本図書） 演習書：「アクセスノート 数学Ⅲ」（実教出版），高遠節夫他著「新 微分積分Ⅱ 問題集」（大日本図書） 参考書：「チャート式基礎と演習 数学Ⅲ」（数研出版）						
備 考	(*)は学習到達度試験が「微分積分学Ⅱ」の時間に実施される場合に適用。						

科目名	数学解析 Mathematical Analysis			担当教員	中空大幸		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220031	単区別	履修
学習目標	この教科では行列、行列式、線形変換の理論とその基本的な応用などを学習する。						
進め方	講義形式で行うが、その内容は教員からの一方的な説明のみで身につくものではない。授業の進度に合わせて受講生各自が予習復習をすることを前提として講義を進める。必要に応じて演習を行ったりレポートを課したりする。						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. 平面のベクトル(つづき)(7) (1) 位置ベクトル(2) (2) 平面図形の性質(2) (3) ベクトル方程式(3)			ベクトルの平面図形への応用ができる。 D1:3			
	2. 空間ベクトル(15) (1) 空間座標(3) (2) 空間のベクトル(4) (3) 位置ベクトル(2) (4) いろいろな応用(3)			空間のベクトルの演算ができる。 D1:2			
	[前期中間試験](2)						
	5. 試験問題の解答(1)						
	3. 行列(20) (1) 行列の定義(1) (2) 行列の和・差、数との積(3) (3) 行列の積(3) (4) 転置行列、逆行列(4) (5) 連立1次方程式と消去法(4) (6) 逆行列と連立1次方程式(4)			行列の基本的な演算ができる。 D1:2  行列を用いて連立1次方程式を解くことができる。 D1:2, 3			
	前期末試験						
	(7) 試験問題の解答(1)						
	4. 行列式(18) (1) 行列式の定義、行列式の性質(4) (2) 行列の積の行列式(2) (3) 行列式の展開、行列式と逆行列(4) (4) 連立1次方程式と行列式(4) (5) 行列式の図形的意味(4)			行列式の定義および性質を理解し、行列式の値を求めることができる。 D1:1, 2  クラメルの公式を用いて連立1次方程式を解くことができる。 D1:1-3			
	5. 線形変換(11) (1) 線形変換の定義と性質(2)			平面上の線形変換に関する計算ができる。 D1:1, 2			
[後期中間試験](2)							
(2) 試験問題の解答(1)							
(3) 合成変換と逆変換(3)							
(4) 回転を表す線形変換、直交変換(3)							
(5) 学習到達度試験(*)							
6. 固有値と固有ベクトル(19) (1) 固有値と固有ベクトル(4) (2) 行列の対角化、対角化可能な条件(4) (3) 対称行列の対角化(5) (4) 対角化の応用(5)			正方行列の固有値や固有ベクトルを求めることができる。 D1:1, 2 正方行列の対角化を計算できる。 D1:1, 2 2次形式の標準形や正方行列のべき乗を求めることができる。 D1:1-3				
後期末試験							
(5) 試験問題の解答(1)							
評価方法	定期試験 90%, レポートなどを 10%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ} → 基礎数学Ⅲ → 数学解析 → 応用数学						
教材	教科書:「新版数学B」(実教出版), 高遠節夫他著「新 線形代数」(大日本図書) 演習書:「アクセスノート 数学B」(実教出版), 高遠節夫他著「新 線形代数 問題集」(大日本図書) 参考書:「チャート式基礎と演習 数学Ⅱ+B」「チャート式基礎と演習 数学Ⅲ」(数研出版) その他, 教員作成プリントなど						
備考	(*)は学習到達度試験が「数学解析」の時間に実施される場合に適用。						

科目名	保健・体育Ⅲ Health and Physical Education Ⅲ			担当教員	福濱孝志		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	15220032	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明した上で、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。 団体種目については、個人の基礎技術を習得した上で、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール 説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 【スポーツテスト】 2. 記録測定(3) 【ソフトボール・テニス・ゴルフ選択】 3. 選択授業の説明、種目の決定(1) 4. ゲーム（ゴルフは基本スイング）(16) 5. 実技試験(1) 【水泳】 6. 競泳種目の練習および遠泳(2) 7. 体育祭および練習(7) 【バレーボール・バスケットボール選択】 8. 選択授業の説明、種目の決定(1) 9. ゲーム(12) 10. 実技試験(1) 【サッカー・バドミントン・卓球選択】 11. 選択授業の説明、種目の決定(1) 12. ゲーム(13) 13. 実技試験(1)			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえ るようになる。 F2:1-4 毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4 基礎技術を修得すると共に、ルールを把握した上で、 自分たちで試合を運営できることを目指す。 F2:1-4, F3:1-5 水に慣れると共に、泳力（持久力）の向上を目指す。 F2:1-4, F3:1, 2 体育祭において、個々の運動能力を発揮するととも に、他の学生と協調しながら積極的にスポーツに取り組む 姿勢を養う。 F2:1-4, F3:1-5 1・2年時に基礎技術を修得しているので、ゲーム中 心の内容で、チームの戦術の向上、審判技術の向上を 目指す。 F2:1-4, F3:1-5 サッカーは、1・2年時に基礎技術を修得しているの で、ゲーム中心の内容で、チームの戦術の向上、審判 技術の向上を目指す。またゴルフでは、バードゴルフ などを取り入れて実践的なことを体験する。 F2:1-4, F3:1-5			
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	英語 IIIA English IIIA			担当教員	鳥越 洋子			
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220033	単位区別	履修	
学習目標	文法の理解を増し、単語を覚えることで英語への知識を深める。英語をより良く理解し、英作文や英文の読解が容易になることを目標とする。							
進め方	授業では英語特有の文法構造を理解し、確認のための問題練習として、英語構文や表現を学習しながら、主に文法事項の問題を解く。また、コミュニケーションの手段としての英語を伸ばすために、聴解演習を行う。							
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標				
	1. シラバス解説	(1)		易しい英語で書かれた文の構造を文法的に把握し、その知識を読解に役立てることができる。B2:1,2				
	2. 文の種類	(6)						
	3. 文の要素と文型	(6)						
	4. 時制	(6)						
	5. 試験範囲のまとめ	(3)						
	-----			日常生活や身近な話題に関してゆっくりと明確に話されれば、その内容を理解することができる。B1:1,2				
	[前期中間試験]							(1)
	6. 答案返却・解答	(1)						
	7. 完了形	(5)						
8. 助動詞	(9)							
-----			日常生活や身近な話題に関して易しい英語で書かれた説明文や図表などから、その概要や必要な情報を大体は理解できる。B1: 1, 2					
前期末試験								
11. 答案返却・解答	(1)							
10. 動詞の態 (2)	(3)							
11. 不定詞	(9)							
-----			日常生活や身近な話題に関して、会話モデルに自分の意見や感想を少し交えて、ペア活動を行うことができる。B2:1,2					
[後期中間試験]							(1)	
15. 答案返却・解答	(1)							
16. 分詞	(10)							
17. 比較	(7)							
-----			後期末試験					
後期末試験								
19. 答案返却・解答	(1)							
評価方法	定期試験 80%, 取り組み態度, レポートなどを 20%の比率で総合評価する。							
履修要件	特になし							
関連科目	英語III B (3年)							
教材	『Dual Scope English Grammar in 27 Stages』 数研出版 『Workbook for Dual Scope English Grammar in 27 Stages』 数研出版 『Hyper Listening PLUS Elementary』 桐原書店							
備考	特になし							

科目名	英語ⅢB EnglishⅢB			担当教員	下林千賀子		
学 年	3 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220034	単位区別	履修
学習目標	英語の理解が容易になることを目標とする。英文を読みながら、文法を把握し、単語を覚えることで、英語をよりよく理解し、英語への知識を深める。						
進め方	新出単語や熟語の意味を調べて、英文の内容を理解していく。 英語の語順に従って意味をとらえていく練習を行うとともに、セクションごと、あるいはパラグラフごとの主題をつかみ 英文の構成を考えることができるようにする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. シラバス解説、ノートを取り方授業の進め方(1)						
	2. Reading Skills パラグラフとトピックセンテンス、パラグラフの構造、修飾語、ディスコースマーカ―などリーディングスキルを学び実践する。 Lesson1 The History of English Tea (14)			リーディングスキルを学ぶ	B1:1, 2, 3		
				パラグラフの主題と文の構成を理解	B1:1, 2, 3		
				語句と英文の内容理解	B1:1, 2, 3		
	3. 試験範囲のまとめ (1)			フレーズごとの音読と訳ができる	B1, 2:1, 2, 3		
	[前期中間試験]			要約、演習問題と語句練習	B2:2		
	4. 答案返却・解答 (1)			語句と英文の内容理解	B1:1, 2, 3		
	5. Lesson2 The Work of “Zoo Dentists” lesson3 Ecotourism (10)			フレーズごとの音読と訳ができる	B1, 2:1, 2, 3		
				リーディングスキルの応用	B1:1, 2, 3		
	6. 試験範囲のまとめ (1)			パラグラフの主題と文の構成を理解	B1:1, 2, 3		
				要約、演習問題と語句練習	B2:2		
	前期末試験						
	7. 答案返却・解答 (1)			語句と英文の内容理解	B1:1, 2, 3		
	8. Lesson3 Ecotourism:What to do and Where to Lesson4 The 10,000-Hour Rules (14)			フレーズごとの音読と訳ができる	B1, 2:1, 2, 3		
				リーディングスキルの応用	B1:1, 2, 3		
	9. 試験範囲のまとめ (1)			パラグラフの主題と文の構成を理解	B1:1, 2, 3		
	[後期中間試験]			要約、演習問題と語句練習	B2:2		
	10. 答案返却・解答 (1)			語句と英文の内容理解	B1:1, 2, 3		
11. Lesson5 Making Contact:The First Four Minutes of an encounter (13) (Lesson6 The Mysterious World of Sleep )			フレーズごとの音読と訳ができる	B1, 2:1, 2, 3			
			リーディングスキルの応用	B1:1, 2, 3			
18. 試験範囲のまとめ (1)			パラグラフの主題と文の構成を理解	B1:1, 2, 3			
			要約、演習問題と語句練習	B2:2			
後期末試験							
19. 答案返却・解答 (2)							
評価方法	定期試験 80%、ノートテイキング、宿題プリント、予習授業取組を 20%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語ⅢA						
教 材	Power On III Communication English 東京書籍						

科目名	語学演習 Language seminar			担当教員	水野 知津子		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220035	単位区別	履修
学習目標	外国語を読む、書く、聞く、話す、実践的演習を通して、コミュニケーションツールとしての外国語の基礎を身につける。						
進め方	英語は実技科目である。使わないと英語力はつかない。英語を声に出してどんどん使ってもらおう。毎回の積極的授業参加が不可欠である。語彙・書き取り・音読等様々な小試験、パフォーマンス試験を行う。相手に対する配慮ができるといった将来に必要なコミュニケーション力育成のためにもペア・グループ活動を多く取り入れ、協働しながら共に力を伸ばしていく。 1. 総合問題集を解く。2. 多読教材を読み、読書記録をつける。3. 英検教本を使い外部テストに備える。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	学習内容 (14) 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 オリエンテーション、pre-test Lesson 1~3			自分に合ったレベルの本を選び、その内容を理解することができる。 読書記録を続けて、学習を自己管理できる。  日常生活や身近な話題に関してゆっくりと明確に話されれば、その内容を理解することができる。 B1:1,2			
	[前期中間試験] (1)						
	試験問題の解説 (1) 学習内容 (14) 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 Lesson 4~6			日常生活や身近な話題に関して易しい英語で書かれた説明文や図表などから、その概要や必要な情報を大体は理解できる。  外国語学習者向けに易しい英語で書かれた物語 (Y.L.0.8以上)を辞書無しで読むことができる。 B1:1,2			
	前期末試験						
	試験問題の解答 (1) 学習内容 (14) 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 Lesson 7~9			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を英語で説明することができる。 B2:1,2			
	[後期中間試験] (1)						
	試験問題の解答 (1) 学習内容 (12) 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 Lesson 10~12 Post-test 学習到達度試験 (2)			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、まとまりのある文章を書くことができる。  B2:1,2			
期末試験							
評価方法	中間・期末試験を70%、多読記録帳10%、取り組み態度、パフォーマンステスト、小テストを20%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語Ⅰ (1年) →英語Ⅱ (2年) →英語Ⅲ・語学演習 (3年) →英語特Ⅰ (4年) →英語特Ⅱ (5年)						
教材	Transfer B 英語総合問題演習 3rd edition (桐原書店) 英検2級総合対策教本 (旺文社) 多読教材 (図書館内)						
備考	理解度・定着度により進度を調整することがある。 担当教員への連絡先: mizuno@dg.kagawa-nct.ac.jp						

科目名	キャリア概論 Career Support			担当教員	担任		
学年	1,2,3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義, 実習	科目番号	14220036	単位区別	必修
学習目標	キャリアアップにつなげるための基礎的な学習・体験を通じて、社会性・人間性を育てると共に、将来の進路設計の具体化ならびに職業観・勤労観を養い育てる。						
進め方	1 学年から3 学年の各学年において、年間 10 単位時間を当て、キャリア発達支援に関する講義・実習などの授業を受ける。年度初めに実施する項目を提示する。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1 学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 1. 高専1年生の心構え 2. スケジュール管理とは 3. 高専生の進路 4. ビジメスマナーとは、挨拶の大切さとは 5. 身だしなみの基本とは 6. 社会人としての言葉づかいとは、よく使う敬語 7. 学生と社会人(職業人)の違いとは 8. 働くとは(働く意味を考え直そう) 9. 仕事とは 10. コミュニケーション、非言語コミュニケーションとは			自己とは何かを考えることができる。 E6:1 高専生活への適応を図ることができる。 E1:1 自然、人間、社会に触れることができる。 自らの進路決定の準備(1) 高専生の進路について知っている。 D3:1 働くことの意味とすばらしさを考えることができる。 A1:1, A2:2 企業が求める人材は、知的能力、EQ の高い人、コンピテンシーの高い人であることを知っている。 D3:1			
	2 学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 11. 人間関係の基本とは 12. 自分を知る、相手を知るとは 13. チームワークとは 14. 効果的なコミュニケーションとは 15. 科学的仕事とは 16. 時間管理の基本スキルとは 17. コミュニケーションの方法とは 18. ファイリングの仕事とは 19. リーダーシップとは 20. リーダーシップとフォロアーズとは			自立心を育てることができる。 E6:2 自分と他人との関係を考えることができる。 F3:2 自然、人間、社会について考えることができる。 自らの進路決定の準備(2) 高専生の進路について具体的に理解できる。 E1:2 技術者として働くことの意味を考えることができる。 A1:1-2 知的能力、EQ、コンピテンシーについて理解できている。 D3:1			
	3 学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 21. 正解のない社会とは 22. 組織とは 23. 企業とは 24. 企業の目的とは 25. 利益追求活動とコストとは 26. 企業の社会的責任(CSR)とは 27. 職業倫理とは 28. 新入社員の役割とは 29. 自己啓発のすすめとは 30. 高学年に向けての心構え			自己を見つめることができる。 E6:3 社会と自分との関わりを自覚することができる。 F3:3 現代社会の様々な問題に目を向けることができる。 自らの進路決定の準備(3) 自分の進路を考えることができる。 E1:3 技術者として働くことの意味を考えることができる。 A1:1-2, A2:2 知的能力、感情能力、コンピテンシーを高める努力をすることができる。 E6:1			
評価方法	・評価は合否とし、100点法では評価しない。出席状況、レポート提出状況をみて総合的に判定する。 ・1 学年から3 学年までの3 年間における全てのレポートが提出なされていない場合は、不合格とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	特別活動(ホームルーム)						
教材	教科書:「高等専門学校生のキャリアプラン」 三好章一, 渡部章, 渡部博子共著 実業之日本社発行 教材:「高専手帳」 香川高専・宇部高専教員監修, 香川高専・宇部高専学生製作, メディア総研株式会社発行						
備考							

科目名	保健・体育IV Health and Physical EducationIV			担当教員	有馬弘智・横山学		
学年	4年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	15220037	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	それぞれの種目の基礎技術は下級生の時に修得しているもので、ゲーム中心の内容で授業を行なう。その中で各 種目の運動理論をより深く理解し、個人の基礎技術の向上、審判技術のレベル向上を目指す。また、選択制度 を取り入れ、自分の興味ある種目を選択させることで、社会体育への継続を目指す。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明および 選択種目の決定(1)  【ソフトボール・テニス選択】 2. ゲーム(12) 3. 実技試験(1)			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえ るようにする。 F2:1-4  ルールを把握した上で、自分たちで試合を運営でき ることを目指す。 F2:1-4, F3:1, 2			
	[前期中間試験]						
	【ゴルフ・バドミントン・卓球選択】 4. ゲーム（ゴルフは基本スイング）(12) 5. 実技試験(1)  【スポーツテスト】 6. 記録測定(3)			基礎技術を修得すると共に、ルールと理論を理解し、 ゲームが行なえるようにする。 F2:1-4, F3:1, 2  毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4			
	前期末試験						
	7. 体育祭および練習(7)  【バレーボール・バスケットボール選択】 8. 選択授業の説明、種目の決定(1) 9. ゲーム(10)			1・2年時に基礎技術を修得しているもので、ゲーム中 心の内容で、チームの戦術の向上、審判技術の向上を 目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	[後期中間試験]						
	10. 実技試験(1)  【サッカー・ゴルフ選択】 11. ゲーム(10) 12. 実技試験(1)			サッカーは、1・2年時に基礎技術を修得しているの で、ゲーム中心の内容で、チームの戦術の向上、審判 技術の向上を目指す。またゴルフでは、バードゴルフ などを取り入れて実践的なことを体験する。 F2:1-4, F3:1, 2			
	後期末試験						
	評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。					
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	文学特論Ⅱ Japanese Literature II			担当教員	東城 敏毅, 富士原 伸弘		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220038	単位区別	履修
学習目標	日本文学の原点ともいえる作品である『古事記』『万葉集』(古代日本文学)の読解を中心に、種々の文学やその理論にも触れることで、創造的な発想力や思考の柔軟性を養い、視点の取り方の方法を学ぶ。また、日本語による表現力・討論力の向上も目的とする						
進め方	講義と演習(論述)を行う。						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. ガイダンス(2) 2. 『万葉集』を読む(28) (1) 『万葉集』の基本と「訓む」ことについて (2) 木簡の意義—役人の文書と「歌木簡」— (3) 巻1「原撰部」に見られる〈歴史〉 (4) 額田王—熟田津と夜の船出— (5) 持統天皇と藤原宮 —皇位継承問題と奈良時代の宮都— (6) 平城京のサラリーマン事情 (7) 遣唐使と天平の時代 (8) 阿倍仲麻呂在唐歌—天の原ふりさけ見れば— (9) 讃岐の万葉集—柿本人麻呂と沙弥島—			文学作品について鑑賞の方法を理解できる。また、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。  日本文化の基層をなす和歌について学ぶ。 A1:3, A3:1-2 様々な和歌の中で問題点は何かを考える。 B1:1-2  自分の考えを要領よくまとめる。 B2:1-2  説明内容を理解させる工夫をする。 B3:1-3			
	前期末試験						
	3. 試験問題の解答(1) 4. 『古事記』『日本神話』を読む(28) (1) 日本神話概説 (2) 古事記の成立・古事記と日本書紀 (3) 「天地初発」 (4) 「伊邪那岐と伊邪那美、黄泉国訪問」 (5) 「天照と須佐之男、天の石屋戸」 (6) 「八岐の大蛇退治、出雲神話」 (7) 「大国主神、根国訪問」 (8) 「天孫降臨、木花佐久夜毘売」 (9) 「海幸彦と山幸彦、海神の宮訪問」 (10) 神武天皇以降概説			文学作品について鑑賞の方法を理解できる。また、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。  日本文化の基層をなす神話を学ぶ。 A1:3, A3:1-2  様々な神話の中で問題点は何かを考える。 B1:1-2  自分の考えを要領よくまとめる。 B2:1-2  説明内容を理解させる工夫をする。 B3:1-3			
	後期末試験						
	6. 試験問題の解答(1)						
評価方法	評価の内訳: 定期試験 60%, 提出物 20%, 授業内演習 20%						
履修要件	特になし。						
関連科目	国語Ⅰ(1年)→国語Ⅱ(2年)→国語Ⅲ(3年)→文学特論Ⅱ(4年)→文学特論(専攻科2年)						
教材	教科書: 年表資料 上代文学史—古代日本文学を知るための最適ガイド 笠間書院 金井清一・小野寛編 また、プリント等を適宜配布する。						
備考	「万葉集」授業担当者は東城、「古事記」授業担当者は富士原。なお、夏休みに実地研修旅行「飛鳥・藤原・平城を体感する」(2泊3日)を実施する。ただし、この旅行は希望者のみで実施し、評価には関与しない。						

科目名	数学概論 I Mathematics Seminar I			担当教員	南貴之, 橋本竜太		
学年	4 年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220039	単位区別	履修
学習目標	一変数および多変数の微分積分学の復習を通じて学力の向上を図り, 編入学生の勉学を助けると共に大学へ編入するのに十分な実力を養成する。						
進め方	問題を解く練習を通じて既習内容の復習・補完をし, 数学の学力の向上と定着を図ると共に本校への編入学生や大学へ編入を希望する学生の指導に資する。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 多変数関数の微分積分 (7) (1) 偏微分の計算とその応用 (2) (2) 重積分の計算とその応用 (4)			偏微分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3 重積分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3			
	[前期中間試験]						
	(3) 試験問題の解答 (1) 2. 極限と微分法 (8) (1) 関数の極限 (1) (2) 導関数, 微分法 (2) (3) 関数の展開, 級数 (2) (4) 微分法の応用 (2)			関数の極限の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3 一変数関数の微分が計算でき, それらの応用ができる。 D1:3 級数の収束・発散の判定およびそれらの応用ができる。 D1:3			
	前期末試験						
	(5) 試験問題の解答 (1) 3. 積分法 (15) (1) 不定積分の計算 (3) (2) 定積分の計算 (2) (3) 積分の応用 1 (2)			一変数の積分の計算ができる。 D1:3			
	[後期中間試験]						
	(4) 試験問題の解答 (1) (5) 積分の応用 2 (4) (6) 広義積分 (2)			一変数の積分の応用ができる。 D1:3			
後期末試験							
(7) 試験問題の解答 (1)							
評価方法	定期試験 90%, レポート等 10%の比率で総合的に評価する。講義妨害行為は減点措置の対象。						
履修要件	特になし。						
関連科目	{基礎数学 I II III, 微分積分学 I II, 数学解析} → 数学概論 I						
教材	教員作成プリント。第 3 学年までに使用した数学教科書や問題集。						
備考	講義時間外の演習なしでの単位取得は無理と心得ること。講義内容への集中を妨げる行為は御法度。						

科目名	数学概論Ⅱ Mathematics Seminar II			担当教員	田村恭士		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220040	単位区別	履修
学習目標	複素関数の解析学, すなわち複素関数論は, 理工学において広い応用をもつことから, 基礎的な教養として一度学んでおく必要がある。本科目では, 実関数の積分への応用を主要なテーマとして, 複素関数論への入門となる内容を学習する。その学習を通して, 計算力の強化および数学的論理思考能力の養成を目指す。						
進め方	指定教科書に沿って学習内容を解説していく講義形式。小テストやレポート作成を通して学習内容の定着を図る。各自の自主的な予習復習は必須。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 複素数と複素関数(7) (1) 複素数の四則演算 (2) 2次方程式や高次方程式の求解 (3) 複素数平面と四則演算 (4) 極形式, 複素数のべき乗 (5) ドモアブルの定理, 1のべき根 (6) 指数関数や三角関数 ----- [前期中間試験]			複素数の基本的な計算ができる。 D1:2			
	(7) 試験問題の解答(1) 2. 曲線と複素関数の微積分(8) (1) 正則関数 (2) コーシー・リーマンの微分方程式 (3) 複素関数の複素微分 (4) 曲線の媒介変数表示 (5) 実変数複素関数の微積分 (6) 複素積分の定義 (7) 復習: 正則関数と複素微分			基本的な複素関数の微積分が計算できる。 D1:2			
	前期末試験						
	(8) 試験問題の解答(1) 3. 複素積分と留数定理(7) (1) 多項式や有理式の一周積分 (2) コーシーの積分定理と積分公式 (3) グルサの公式 (4) 極, 留数, 留数定理 (5) 有理式の留数定理 (6) 三角関数の有理式の実積分への応用 ----- [後期中間試験]			コーシーの積分定理を理解する。 D1:3  留数の基本的な計算ができる。 D1:2			
	(7) 試験問題の解答(1) 4. 複素積分の応用(7) (1) 複素関数の評価 (2) 複素積分の評価 (3) 有理式の無限積分の計算 (4) 三角関数を含む無限積分の計算 (5) 復習: 複素積分の実積分への応用			複素積分を利用して実積分を計算できる。 D1:3			
後期末試験 (6) 試験問題の解答(1)							
評価方法	定期試験 80%およびレポート 20%で総合評価する。ただし, 比率は目安であり, 受講生の受講状況を踏まえて変更することがあり得る。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学ⅠⅡⅢ, 微分積分学ⅠⅡ, 数学解析} → 数学概論Ⅱ ↔ {数学概論Ⅰ, 応用数学}						
教材	教科書: 今吉洋一「複素関数概説」(サイエンス社) 参考書: 高等学校「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」の教科書や参考書 参考書: 「新 応用数学」(大日本図書)						
備考	内容が難しいので, 問題演習を積極的に行うこと。						

科目名	英語特論 I English for Specific Purposes I		担当教員	出淵幹郎			
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220041	単位区別	履修
学習目標	英語習得には一定量以上のインプットが欠かせない。この授業では150ページ以上の英語を短期間で読むこと、視聴覚教材を大量に視聴することを通し、日本語を介さず英語を直解する力を身につけることを目標とする。オーセンティックで洗練された英語を読むことで英語に対する感覚を養う。また、Frozen のDVD とスクリーンプレイを利用し音声英語に親しむ。原書、DVD を通して英語圏の国の子ども文化に触れ、理解を深める。小テストに英語で解答し、解答した英文の添削を受けることでライティング能力を身につける。						
進め方	1. 週1時間 Louis Sachar の Wayside School Is Falling Down を学生との対話形式で読み進める。読んだ読み物の内容について英問英答式の小テストに解答する。 2. 週1時間は Frozen を視聴し、スクリーンプレイで音声英語を確認する。視聴した内容、語彙について適宜小テストを行う。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	Sideways Stories from Wayside School Chapter 7 まで (6) Frozen Scene 4 まで (6) 英問英答小テスト (2) ----- [前期中間試験] (1)			Written English, Spoken English を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える (和訳しない) 習慣を身につけながら語感を養う。それがそのまま TOEIC 対策となる。 小テストに英語で解答することでモデルを利用して正しい英文を書くことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	Sideways Stories from Wayside School Chapter 15 まで (7) Frozen Scene 8 まで (6) 英問英答小テスト (2) ----- 前期末試験			Written English, Spoken English を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える (和訳しない) 習慣を身につけながら語感を養う。それがそのまま TOEIC 対策となる。 小テストに英語で解答することでモデルを利用して正しい英文を書くことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	Sideways Stories from Wayside School Chapter 22 まで (6) Frozen Scene 12 まで (6) 英問英答小テスト (2) ----- [後期中間試験] (1)			Written English, Spoken English を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える (和訳しない) 習慣を身につけながら語感を養う。それがそのまま TOEIC 対策となる。 小テストに英語で解答することでモデルを利用して正しい英文を書くことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	Sideways Stories from Wayside School Chapter 30 まで (7) Frozen Scene 16 まで (6) 英問英答小テスト (2) ----- 後期末試験			Written English, Spoken English を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える (和訳しない) 習慣を身につけながら語感を養う。それがそのまま TOEIC 対策となる。 小テストに英語で解答することでモデルを利用して正しい英文を書くことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	前期末試験						
	後期末試験						
評価方法	年4回の定期試験を80%、小テスト20%の比率で総合評価を行う。 4回の定期試験のうち一斉受験する TOEIC IP を1回分とする (後期中間試験に予定しているが変更の可能性がある)。 年間数回希望者対象に実施する TOEIC IP の結果をプラス評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語ⅢA、英語ⅢB など3年生までの英語科目						
教材	『Wayside School Is Falling Down』 Louis Sachar (Harper Trophy) Frozen DVD とそのスクリーンプレイ、そのハンドアウト教材						
備考	オフィスアワーは月曜、木曜、金曜放課後随時 (6時までに来室のこと)						

科目名	中国語 I Chinese I		担当教員	張 文, 前崎麗			
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220042	単位区別	履修
学習目標	中国語の発音, 日常用語, 基礎的な文法を学習し, 簡単な会話と文章を書ける能力を養成する。また中国語の学習を通じて中国社会のことを紹介する。						
進め方	各学習項目ごとに, 学習内容の解説とその関連事項を講義する。その講義を基に, 繰り返し練習を行い, 現実に使われている中国語に慣れる。語彙力並びに文章構築力を高めるための活動をする。前期は, 中国語の入門(発音・語彙, 日常用語, 簡単な文法)を行い, 後期は実用的文法(簡単な会話, 簡単な文章)を行う。						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	オリエンテーション、中国語概説 (1) 発音 (3) 第1課「是」人称代名詞 (2) 第2課「指示代名詞」「也」 (2) 第3課「動詞述語文」「反復疑問文」 (2) 第4課「形容詞述語文」 (2) 「副詞」 (1) 第5課「比較文」 (2) 前期の学習をまとめ			1~6  中国語の特徴, 学習法を習得し, 発音を身につける。			
	前期末試験			7~15 あいさつなど定型的な日常会話の語彙・文法を理解することができ会話をおこなえる。			
	第6課「有、在の表現」 (2) 第7課「年月日の言い方、時刻の言い方」 (3) 第8課「了」の表現 (2) 「進行形の表し方」 (2) 第9課結果補語、持続状態を表す「着」 (2) 「了」の表現2 (2) 後期の学習をまとめ (1)			16~22 日常的な会話にでてくる単語や文法を理解し会話ができる。			
	後期末試験			23~30 状況に応じた簡単な会話ができる。			
	答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験 70%, 取組態度・課題などを 30%の比率で総合評価する。						
関連科目	中国語 II						
教 材	「一年生のころ (ビデオで学ぶ入門中国語)」改訂版						
備 考	特になし						

科目名	社会特論 I Social Science I			担当教員	石丸 健		
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220043	単位区別	履修
学習目標	世界は大量生産・消費による環境破壊, 人口爆発と貧困, グローバル経済と諸紛争, テクノロジーの発達に起因する負の影響など, 諸問題が山積している。このような諸問題が即, 日常生活レベルと通底していることが極めて現代の特徴であり, 今こそクールな情熱と豊かな総合知としての哲学が求められている時代は他にない。豊富な思考資料の下, 豊かな試行錯誤を心掛けたい。						
進め方	個体発生は系統発生を要約して繰り返す(ハッセル)と言われるように, 個人の精神史と世界のそれとは局面はどうかあれ関連している。哲学概説を兼ねて哲学する意味を考えたい。世界内存在としての自己と諸問題, そして哲学的知の拡がりに思いを馳せる。西洋哲学史を歴史的に鳥瞰しつつ哲学と時代を考察する。(時代を生きること 哲学と人生)						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. 個人史としての哲学(哲学概説)(4)			自己を形成している精神内容を見つめる眼と他者理解の態度を涵養する。 A1:3			
	2. 現代世界の諸問題と哲学(6)			世界の諸問題と世界内存在としての自己。 A1:3			
	3. 哲学知のさまざまなあり方(4)			さまざまな知的在り方があること理解する。 A1:3			
	4. 西洋哲学史概説(12) …神話 ソクラテス以前 ソクラテス, プラトン, アリストテレス ヘレニズム哲学 神学			歴史的変遷によりさまざまな思想が誕生し, 時代の役割を果たした事を知る。 A3:1 境遇の如何に拘わらず教養は人生を豊かにする。 A1:3			
	前期期末試験						
	5. 答案返却・解答(1)			哲学と科学的思考の不可分性と科学的思考を産出した西洋哲学の特性について考える。 A1:3			
	6. 近代哲学と科学的思考そして現代哲学へ(18) デカルト 大陸合理論 イギリス経験論 カント, ヘーゲル, キルケゴール, マルクス ニーチェ etc			現代哲学の思考特性について考える。 A1:3 混迷の度を深める現代世界, 総合知・世界観としての哲学の重要性を知る。 A1:3 世界の偉大な知的伝統の十字路である日本とは何か…。 A1:3			
	7. 現代哲学(6) フッサール ハイデガー						
	8. 総合知、世界観としての哲学(4)						
9. Philosophy と哲学(東洋的形而上学)(4)							
後期期末試験							
10. 答案返却・解答(1)							
評価方法	定期試験を主たる評価とする。 意見発表など積極的に授業参加した者に対しては評価をする。						
履修要件	特になし。						
関連科目	特になし。						
教 材	教科書: なし 参考書: ヨーゲン・ゴルゲン著「ソフィーの世界」NHK出版 木田 元 著「反哲学史」講談社学術文庫 木田 元 著「闇屋になりそこねた哲学者」晶文社 西 研 著「大人のための哲学授業」大和書房 竹田青嗣 著「中学生からの哲学『超』入門」ちくまプリマー新書						
備 考	テーマによっては映像を使用することもある。						

科目名	自然特論 Topics in Natural Science		担当教員	長谷部 一気			
学 年	5 年	学 期	前期	履修条件	選択	単位数	1
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220044	単位区別	履修
学習目標	微分方程式を用いたニュートン力学と量子論の初歩について学ぶ。微分方程式によるニュートン力学と量子論、創作実験を通して自然界の構成についての理解を深める。						
進め方	講義により基本的な事柄を説明する。レポート課題を課す。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 微分方程式によるニュートン力学(2) 2. ニュートン方程式の解法(2) 3. 保存量の考え方(2) 4. 創作実験について(3) 5. 量子論とは何か (3) 6. 光の粒子性、粒子の波動性 (2) 7. 現代素粒子の知識(2) 8. 波動力学 (2) 9. シュレーディンガー方程式 (2)			ニュートン力学を微分方程式に即して理解する。 D1:1  量子力学の基本的な考えを理解する。 D1:1  波動性と粒子性について理解する。 D1:1  シュレーディンガー方程式の導出を理解する。 D1:1.2			
	10. [前期中間試験](2)						
	11. 試験問題の解答(2) 12. 確率解釈(2) 13. 演算子と物理量(2) 14. 創作実験発表 (3)			量子力学において物理量がどのように与えられるか理解する。 D1:1,2  簡単なシュレーディンガー方程式が解けるようになる。 D1:1,2			
	15. 前期期末試験						
	16. 試験問題の解答(2)						
評価方法	定期試験 60%、残りの 40%はレポート、創作実験により評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	物理, 応用物理 I, 応用物理 II						
教 材	参考書： 力学の考え方 (砂川重信著) 岩波書店 量子力学の考え方 (砂川重信著) 岩波書店						
備 考	オフィスアワーは、月曜の放課後(16:20~17:00)とする。						

科目名	数学概論Ⅲ Mathematics Seminar III			担当教員	南貴之		
学 年	5 年	学 期	前期	履修条件	選択	単位数	1
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220045	単位区別	履修
学習目標	一変数および多変数の微分積分学，線形代数学の復習を通じて学力の向上を図り，編入学生の勉学を助けると共に大学へ編入するのに十分な実力を養成する。						
進め方	前半は，これまでの授業では編入問題を解くには不十分な項目について講義を中心に問題演習を行う。後半は3年までの授業内容の復習・補完をし，数学の学力の向上と定着を図る。 これにより，本校への編入学生や大学へ編入を希望する学生の指導に資する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 行列・行列式(2) (1) 行列・行列式の計算 (2) 行列・行列式の応用 2. ベクトル・ベクトル空間と一次変換(6) (1) ベクトル空間 (2) 部分空間 (3) 一次変換 3. 固有値・固有ベクトル(4) (1) 固有値・固有ベクトルの計算 (2) 固有値・固有ベクトルの応用			行列・行列式の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3  ベクトル空間の定義を理解し，その応用ができる。 D1:3  固有値・固有ベクトルの計算およびそれらの応用ができる。 D1:3			
	[前期中間試験](2)						
	4. 試験問題の解答(1) 5. 微分方程式(6) (1) 一階微分方程式 (2) 線形微分方程式 (3) 高階微分方程式 6. 偏微分(4) (1) 偏微分の計算 (2) 偏微分の応用 7. 重積分(4) (1) 重積分の計算 (2) 重積分の応用			与えられた微分方程式の解を求めることができる。 D1:3  偏微分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3  重積分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3			
	前期末試験						
	8. 試験返却・解答(1)						
評価方法	定期試験 90%，レポート等 10%の比率で総合的に評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	{基礎数学ⅠⅡⅢ，微分積分学ⅠⅡ，数学解析，数学概論Ⅰ} → 数学概論Ⅲ						
教 材	教員作成プリントによる問題集，今までに使用した教科書						
備 考	時間数が少ないので，できる限り独力で多くの問題を解き，添削を受けたり質問をしたりすることを期待する。						

科目名	英語特論Ⅱ English for Specific Purposes Ⅱ			担当教員	畑 伸興・鳥越秀知		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220046	単位区別	履修
学習目標	1. 正確に英文が表す意味を理解できるように、英文読解力の向上を目標とする。 2. 文法や語法の問題・聴解演習を行い、TOEICや英検に対応できる英語力を高めることを目標とする。						
進め方	1. 科学的な英文を読み、読解力の強化を図る。 2. TOEIC テスト対策を行う。(文法・語法および聴解)						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. Chapter1-5 (7) 2. TOEIC 対策 (7)			自分の専門分野に関する内容について、はっきりとした発音で説明されれば、その概要や実験・作業の手順を理解することができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	----- [前期中間試験] (1)			論文やマニュアルなど、自分の専門分野に関する文章を、辞書を使いながら読めば、その概要や必要な情報を理解できる。外国語学習者向けに易しい英語で書かれた物語(Y.L. 1.2 以上)を辞書無しで読むことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	試験の解答(1) 1. Chapter 6-10 (6) 2. TOEIC 対策 (7)						
	前期末試験			自分の専門分野に関して、平易な英語でプレゼンを行い、内容に関して簡単なやり取りができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	試験の解答(1) 1. Chapter11-15 (7) 2. TOEIC 対策 (7)						
	----- [後期中間試験] (1)			自分の専門分野に関する英文アブストラクトやプレゼン用の英文資料を、基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
試験の解答(1) 1. Chapter 16-20 (7) 2. TOEIC 対策 (7)							
後期末試験							
評価方法	年4回の定期試験を80%、提出物20%の比率で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語特論Ⅰ						
教材	1. Science Wisdom (成美堂)およびクローザー類出英文法・語法問題(文英堂) 2. 自作プリントおよび HyperListening Plus Intermediate (桐原書店)						
備考	特になし						

科目名	英語特論Ⅱ English for Specific Purposes Ⅱ			担当教員	水野 知津子・鳥越秀知		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220046	単位区別	履修
学習目標	<p>1. 正確に英文が表す意味を理解できるように、英文読解力の向上を目標とする。</p> <p>2. 文法や語法の問題・聴解演習を行い、TOEICや英検に対応できる英語力を高めることを目標とする。</p>						
進め方	<p>1. 週1時間は40人クラスで総合問題集を解く。</p> <p>2. 週1時間はクラスを2グループに分け、20人クラスでそれぞれOutput活動と聴解を中心とした授業を行う。</p> <p>英語は実技科目である。使わないと英語力はつかない。英語を声にだしてどんどん使ってもらおう。毎回の積極的授業参加が不可欠である。将来に必要なコミュニケーション力育成のためにもペア・グループ活動で協働しながら共に力を伸ばしていく。</p>						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	学習内容 オリエンテーション+Lesson 1～3 (7) Output 活動と聴解 (7)			自分の専門分野に関する内容について、はっきりとした発音で説明されれば、その概要や実験・作業の手順を理解することができる。 B1:1,2			
	[前期中間試験] (1)						
	学習内容 Lesson 4～6 (8) Output 活動と聴解 (7)			論文やマニュアルなど、自分の専門分野に関する文章を、辞書を使いながら読めば、その概要や必要な情報を理解できる。 B1:1,2			
	前期末試験			外国語学習者向けに易しい英語 で書かれた物語 (Y.L. 1.2 以上) を辞書無しで読むことができる。 B1:1,2			
	学習内容 Lesson 7～9 (7) Output 活動と聴解 (7)			自分の専門分野に関して、平易な英語でプレゼンを行い、内容に関して簡単なやり取りができる。 B2:1,2			
	[後期中間試験] (1)						
	学習内容 Lesson 10～12 (8) Output 活動と聴解 (7)			自分の専門分野に関する英文アブストラクトやプレゼン用の英文資料を、基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。 B2:1,2			
後期末試験							
評価方法	中間・期末試験を80%、取り組み態度、パフォーマンステスト、小テストを20%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語Ⅰ（1年）→英語Ⅱ（2年）→英語Ⅲ・語学演習（3年）→英語特Ⅰ（4年）→英語特Ⅱ（5年）						
教材	Transfer c 英語総合問題演習 3rd edition (桐原書店) 英検2級総合対策教本 (旺文社) HyperListening Plus Intermediate (桐原書店)						
備考	理解度・定着度により進度を調整することがある。 担当教員への連絡先: mizuno@dg.kagawa-nct.ac.jp						

科目名	英語特論Ⅱ English for Specific Purposes Ⅱ			担当教員	畑 伸興・鳥越秀知		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220046	単位区別	履修
学習目標	1. 正確に英文が表す意味を理解できるように、英文読解力の向上を目標とする。 2. 文法や語法の問題・聴解演習を行い、TOEICや英検に対応できる英語力を高めることを目標とする。						
進め方	1. 科学的な英文を読み、読解力の強化を図る。 2. TOEIC テスト対策を行う。(文法・語法および聴解)						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. Chapter1-5 (7) 2. TOEIC 対策 (7)			自分の専門分野に関する内容について、はっきりとした発音で説明されれば、その概要や実験・作業の手順を理解することができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	----- [前期中間試験] (1)			論文やマニュアルなど、自分の専門分野に関する文章を、辞書を使いながら読めば、その概要や必要な情報を理解できる。外国語学習者向けに易しい英語で書かれた物語(Y.L. 1.2 以上)を辞書無しで読むことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	試験の解答(1) 1. Chapter 6-10 (6) 2. TOEIC 対策 (7)						
	前期末試験			自分の専門分野に関して、平易な英語でプレゼンを行い、内容に関して簡単なやり取りができる。 B1:1-2 B2:1-2			
	試験の解答(1) 1. Chapter11-15 (7) 2. TOEIC 対策 (7)						
	----- [後期中間試験] (1)			自分の専門分野に関する英文アブストラクトやプレゼン用の英文資料を、基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。 B1:1-2 B2:1-2			
試験の解答(1) 1. Chapter 16-20 (7) 2. TOEIC 対策 (7)							
後期末試験							
評価方法	年4回の定期試験を80%、提出物20%の比率で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語特論Ⅰ						
教材	1. Science Wisdom (成美堂)およびクローザー類出英文法・語法問題(文英堂) 2. 自作プリントおよび HyperListening Plus Intermediate (桐原書店)						
備考	特になし						

科目名	中国語Ⅱ Chinese II			担当教員	前崎麗, 張 文		
学 年	5 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220047	単位区別	履修
学習目標	中国語の常用表現の学習を通じて、中国語に関する基礎的な知識を理解させ、中国語の初歩的な応用能力を養成してもらう。						
進め方	各学習項目ごとに、学習内容の解説とその関連事項を講義する。その講義を基に、繰り返し練習を行い、現実に使われている中国語に慣れる。語彙力並びに文章構築力を高めるための活動をする。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	第9課 「了」の表現の復習 (2) 第10課 「会」「時量の言い方」 (3) 第11課 「過」の使い方「様態補語」 (4) 第12課 「可能補語」「能」 (4) 第13課 「把」 (2)  前期の学習をまとめ			1~15 発音と構文に対する理解を深め、中国語の初歩的理解力を養成する。			
	前期期末試験						
	第13課 「让」使役の使い方 (2) 第14課 「存現文」 (4) 第15課 「もうすぐ～」の表現 (4) 「应该」すべき (2) 第16課 「方向補語」 (2) 後期の学習をまとめ			16~30 初歩的作文の能力を養成する。			
	後期末試験						
	答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験 70%, 取組態度・課題などを 30%の比率で総合評価する。						
関連科目	中国語 I						
教 材	「一年生のころ (ビデオで学ぶ入門中国語)」改訂版						
備 考	特になし						

科目名	社会特論Ⅱ Social Science II			担当教員	石丸 健		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220048	単位区別	履修
学習目標	国際関係学の基礎を学ぶ。 前期では、国際関係の構造についての原理的理解を深める。 後期は、地球環境と国際関係及び国際関係と日本についての基礎知識を身につける。						
進め方	講義形式で行う。 テーマを設定し、学生間での議論も取り入れていく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. イントロダクション (2) 2. 冷戦への道と冷戦の始まり (2) 3. 冷戦とその変容 (3) 4. 冷戦の終焉と冷戦の歴史的意味 (2) 5. 地域紛争の時代と紛争多発地帯の原因 (2) 6. 地域紛争を激化させるもの (2) 7. 地域紛争解決への展望 (2)			冷戦についての概括的に理解する		A3:1	
	[前期中間試験] (2)						
	8. 答案返却・解答 (1) 9. 戦後国際経済体制 (2) 10. 経済摩擦と南北問題 (2) 11. 多国間主義と地域統合 (2) 12. 20世紀と安全保障 (2) 13. 核革命と核戦略 (2) 14. 安全保障問題の理論化 (2) 15. 冷戦後の安全保障 (2)			戦後国際経済体制と地域統合についての基本的事項を理解する		A3:3	
	前期末試験						
	16. 答案返却・解答 (1) 17. 環境外交の展開 (2) 18. 持続可能な開発を目指して (2) 19. 多数国間環境条約の発展 (2) 20. 第三世界と国連 (2) 21. 第三世界と冷戦 (2) 22. 国際開発政治の中の第三世界 (2) 23. 来たるべき「地球市民社会」のために (2)			地球環境と国際関係についての概要を理解する		A3:1	
	[後期中間試験] (2)						
	24. 答案返却・解答 (1) 25. 日本国憲法と講和・安保条約 (3) 26. 戦後補償から始まったアジア外交 (3) 27. 国際関係と日本の経済外交 (3) 28. 開発援助分野における日本の国際協力 (2) 29. 国際的平和維持分野での日本の国際協力 (2)			国際関係と日本の政治外交、経済外交の概要を把握する		A3:2	
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答 (1)			国際関係と日本の国際協力について理解を深める A3:1			
評価方法	4回の定期試験の平均点およびレポート提出状況によって評価。						
履修要件	特になし						
関連科目	政治経済 (3年)						
教材	原彬久 編『国際関係学講義』有斐閣						
備考	特になし						

科目名	保健・体育V Health and Physical Education V			担当教員	有馬弘智, 横山 学		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	15220049	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる。						
進め方	それぞれの種目の基礎技術は下級生の時に修得しているので、ゲーム中心の内容で授業を行う。その中で各種目の運動理論をより深く理解し、個人の基礎技術の向上、審判技術のレベル向上を目指す。また、選択制度を取り入れ、自分の興味のある種目を選択させることで、社会体育への継続を目指す。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明および 選択種目の決定(1)  【ソフトボール・ゴルフ・ バドミントン選択】			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえるようにする。 F2:1-4  選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目を選択し、ルールと理論をより深く理解する。			
	[前期中間試験]						
	2. ゲーム(10) 3. 実技試験(1)  【スポーツテスト】 4. 記録測定(3)			また、正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の向上を目指す。 F2:1-4, F3:1-5  毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4			
	前期末試験						
	5. 体育祭および練習(4)  【サッカー・バスケットボール・ ソフトバレーボール選択】  6. 選択授業の説明、種目の決定(1)			選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目を選択し、ルールと理論をより深く理解する。			
	[後期中間試験]						
7. ゲーム(9) 8. 実技試験(1)			また、正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の向上を目指す。 F2:1-4, F3:1-5				
後期末試験							
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	海外英語演習 Overseas English Program			担当教員	国際交流室員・引率教員		
学年	3・4・5年	学期	夏季	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	実習	科目番号	15220050	単位区別	履修
学習目標	海外における英語の学習・体験を通じて、英語によるコミュニケーション能力（スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング）の向上を図る。						
進め方	夏季期間中、ニュージーランド・クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学（CPIT）附属語学学校において、1週間あたり22時間の授業を4週間行う。期間中は英語を日常言語とするニュージーランドの家庭に4週間滞在する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	<p>クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学附属語学学校にて設定される授業プログラムによる。その一例を以下に示す。</p> <p>Listening and speaking (20) Grammar (10) Reading (10) Integrated skills development (20) Vocabulary (10) Writing (10) Phrasal verbs and idioms (8)</p>			<p>日常生活の身直な話題について聞いたり、読んだりしたことを理解し、情報や考えなどを簡単な英語で話したり、書いたりして相手に伝える能力を身につける。B2:1,2</p> <p>相手が話すことを理解しようと努めたり、自分が話したいことを相手に伝えようとする姿勢などを、積極的に英語を使って、コミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。B2:1,2</p>			
評価方法	クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学附属語学学校での評価80%、実施報告書15%、および実施報告会5%の評価を総合して100点法で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	今までに履修した英語科目全て						
教材	クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学附属語学学校						
備考	事前に行われる説明会に必ず参加すること。						

科目名	教育支援活動 Teaching Support Activity			担当教員	全教員		
学年	1,2,3,4,5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	実験・実習	科目番号	15220051	単位区別	履修単位
学習目標	<p>体験入学，オープンキャンパス，理科学支援教育，地域連携イベントなど本校が共同して行う学外行事等の運営に参加することを通して，授業等で習得した知識や技術の確認，教育支援活動を行う上で必要な知識や技術を習得することを目標とする。また，活動の参加者同士による同作業を遂行する能力やコミュニケーション能力を養成することを目標とする。この単位は，行事等において，一般人を対象に，学習により習得した知識や技術を十分に発揮することに意義を求めている。</p>						
進め方	<p>各種学校行事に参加するため，事前に必要な知識や技術を研究する。授業等で既習得の内容に関しては復習を行い，未習得の内容に関しては，担当教員の指導下で，参加者同士協力しながら学習し，必要な知識や技術を習得する。行事参加時，習得した知識や技術を十分に活用し，他の参加者と協力して，行事を活発化する。</p>						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	<p>1各種学校行事への参加目的を理解する。</p> <p>2 教育支援活動を行う上で必要になる知識や技術について，授業等で既習得の内容を復習し，未習得の知識や技能を学習する。</p> <p>3各種学校行事に参加するための心構えなどの事前のガイダンスを受ける。</p> <p>4 授業時間外において，各種学校行事に参加するための準備も含めて各学生が30時間以上の活動を行う。</p>			<p>各種学校行事への参加の目的を理解している。</p> <p>E1:1</p> <p>事前研究を行い，授業等で学んだ内容を確認する。新しい内容を学習する。</p> <p>C1:1,D3:1,2</p> <p>各種学校行事への参加の目的を再確認する。</p> <p>習得した知識や技術を十分に活用する。他の参加者と協力して共同作業を行い，行事を活発化する。</p> <p>B1:1,2,B2:1,2,B3:1-3,D3:1,E1:1,2,E5:1,2,E6:1-3</p>			
評価方法	<p>担当教員が提出した，学生の教育支援活動の実績を証する教育支援活動教育支援活動証明書により教務小委員会において協議し，「合格」または「不合格」で評定する。</p>						
関連科目							
教材							
備考	<p>遅刻・欠席等で他の参加者に迷惑をかけない。挨拶等の社会ルールを守る。行事の担当教員の指示に従い，事故に注意し，本校学生として常識のある行動をする。</p>						